

# 大阪府教育庁文化財調査事務所年報

22

2018年11月

大阪府教育委員会



## はじめに

大阪府教育庁文化財調査事務所は、平成9年に大阪府における埋蔵文化財発掘調査の拠点として開設されました。それ以降現在に至るまで、文化財調査事務所は、府内における発掘調査、それに伴う整理作業及び報告書作成を主な業務として実施しています。くわえて埋蔵文化財を活かした普及・啓発・公開事業についても積極的に取組をすすめています。

平成9年以降、調査面積は、平成17年度の約58,000m<sup>2</sup>をピークとして、年々減少し、平成29年度は約8,000m<sup>2</sup>とピーク時の約14%まで落ち込んでいます。

一方、普及・啓発・公開事業については、開設当時は、発掘調査現場の現地説明会が主でしたが、平成11年度からは、府内出土の資料を利用した展示会を開催するとともに、平成20年度からは府立博物館との連携事業も開始しました。平成29年度には、展示会、講演会、収蔵庫の公開などを約60回実施し、多くの府民の皆様に活用していただけるよう事業展開を心掛けております。

平成31年4月1日から文化財保護法が一部を改正されることになり、ますます文化財の保護にくわえて活用が求められるようになります。我々文化財保護課といたしましても、よりいっそう文化財の保護と活用を進めていく所存でございますので、今後とも大阪府の文化財保護行政にご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成30年11月30日

大阪府教育庁文化財保護課長

森屋 直樹

## 例　　言

1. 本書は大阪府教育庁文化財調査事務所年報第22冊である。
2. 本書には平成29年度に文化財調査事務所が実施した埋蔵文化財調査報告及び公開活動等の記録を記載している。
3. 埋蔵文化財調査概要報告の表題には以下の内容を示す。  
　　遺跡名（平成29年度調査番号）  
　　(1) 所在地  
　　(2) 調査の原因となった事業  
　　(3) 調査担当者  
　　なお、概要報告表題の調査番号は表3の調査番号に一致する。
4. 各項の執筆分担
  - ・「平成29年度における埋蔵文化財調査の概況」　　調査管理グループ
  - ・「主要発掘調査の概要報告」　　調査事業グループ
  - ・「資料紹介」　　調査事業グループ
  - ・「事業報告」　　調査管理グループ　　なお、資料紹介については覚張隆史氏（金沢大学）に原稿執筆をお願いした。
5. 本書の編集は、調査管理グループが行った。

# 目 次

はじめに

例 言

目 次

挿図目次 表目次 グラフ目次

平成 29 年度における埋蔵文化財調査の概況 ..... 1

## 【主要発掘調査の概要報告】

府中遺跡	(17001).....	6
諏訪遺跡	(17008).....	8
東田辺遺跡	(17009).....	9
宮園遺跡	(17010).....	10
宮町遺跡	(17018).....	11
番川下流遺跡	(17019).....	12
蟹井淵南遺跡	(17025).....	13
長原遺跡	(17026).....	16
百舌鳥本町遺跡	(17032).....	17
安松田遺跡	(17047).....	20

## 【資料紹介】

1987 年度調査の龟井遺跡.....	21
山畠 18 号墳の調査成果.....	27
日下遺跡出土馬骨の放射性炭素年代測定 .....	33

## 【事業報告】

文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業 .....	37
平成 29 年度収蔵資料.....	41
平成 29 年度調査・研究等の検討会.....	41
平成 29 年度大阪府教育府文化財保護課刊行物一覧 .....	41
平成 29 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧 .....	42
平成 30 年度調文化財保護課・文化財調査事務所組織図 .....	48

# 挿 図 目 次

図 1 平成 29 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図	4	図 14 調査地位置図 .....	9
図 2 主要調査位置図.....	5	図 15 調査区平面図及び南壁断面図 .....	9
図 3 調査地位置図.....	6	図 16 調査地位置図（破線内） .....	10
図 4 1 区全景.....	7	図 17 調査区配置図 .....	10
図 5 2 区石敷き遺構 I .....	7	図 18 第 1 調査区瓦器椀出土状況 .....	10
図 6 2 区石敷き遺構 I (下部の石敷き) .....	7	図 19 調査地位置図 .....	11
図 7 須恵器・土師器が点在する遺構.....	7	図 20 調査区全景（上が北） .....	11
図 8 須恵器が点在する遺構.....	7	図 21 柱穴の集中と掘立柱建物（東から） .....	11
図 9 調査地位置図.....	8	図 22 小型の方墳（北から） .....	11
図 10 調査地全景（南から） .....	8	図 23 調査地と周辺の遺跡 .....	12
図 11 調査地西壁断面（東から） .....	8	図 24 調査区の配置 .....	12
図 12 西壁土層断面図 .....	8	図 25 調査地位置図 .....	13
図 13 出土遺物実測図 .....	8	図 26 調査区位置図 .....	13

図 27 1 から 8 トレンチ断面図	14
図 28 9 トレンチ断面図（上）・10－1 トレンチ断面（下）	14
図 29 10－2 トレンチ断面図	14
図 30 11 トレンチ断面図	14
図 31 12 トレンチ断面図	14
図 32 試掘トレンチ断面図	15
図 33 調査対象地（島の谷を挟む）	15
図 34 9 から 12 トレンチ	15
図 35 1 トレンチ	15
図 36 8 トレンチ	15
図 37 9 トレンチ	15
図 38 12 トレンチ	15
図 39 調査地位置図	16
図 40 1 区全景（北から、白線は 1－001）	16
図 41 調査区全体図	16
図 42 調査地位置図	17
図 43 昭和 36 年の調査地付近の地形図	17
図 44 南壁・西壁断面図・平面図	18
図 45 調査区全景（南東から北西方向を望む）	18
図 46 調査区北壁	19
図 47 北壁（東端）	19
図 48 北壁（西端）	19
図 49 既往調査区と 29 年度物理探査実施地点	20
図 50 I 地点検出の窓跡状反応	20
図 51 I 地点の物理探査測線と検出の落込み（A：窓跡状反応）	20
図 52 KMI－87－2 調査区位置図	21
図 53 調査区全体図と中央部平面・断面図	22
図 54 ゴミ・ヘドロ除去作業	22
図 55 北半部全景（上流から）	22
図 56 南半部全景（下流から）	22
図 57 各遺構の平面・断面図	23
図 58 南半部土坑・井戸・溝 1（南から）	23
図 59 北半部土坑 2・3（北東から）	23
図 60 出土遺物実測図（1）	24

図 61 出土遺物実測図（2）	25
図 62 井戸 2 南半部（南東から）	26
図 63 井戸 2 北半部（北から）	26
図 64 土坑 1（北西から）	26
図 65 土坑 1（北から）	26
図 66 井戸 3（北から）	26
図 67 土坑 2（南西から）	26
図 68 獣骨と鹿角	26
図 69 犬（？）頭骨	26
図 70 山畠古墳群分布図	27
図 71 山畠 18 号墳墳丘（西から）	28
図 72 山畠 18 号墳玄室（奥壁から）	28
図 73 山畠 18 号墳墳丘測量図	28
図 74 山畠 18 号墳墳石室平面図・立面図	29
図 75 山畠 18 号墳石室平面図（上から掘削順）	30
図 76 石室内奥壁付近遺物出土状況	31
図 77 石室内遺物出土状況実測図	31
図 78 鉄鎌 3 点・鉄釘 1 点	31
図 79 鉄鎌 5 点	31
図 80 刀子 2 点	31
図 81 須恵器 3 点	31
図 82 調査区位置図	33
図 83 馬出土状況	33
図 84 肩甲骨 KSK01 の骨コラーゲンの較正年代	35
図 85 日下遺跡出土馬の全身骨格	36
図 86 平成 29 年度弥生文化博物館冬季企画展での公開	36
図 87 中学生の職場体験	37
図 88 高学生のインターンシップ	37
図 89 府中遺跡現地公開	37
図 90 和泉池上文化財収蔵庫の特別公開	37
図 91 文化財調査事務所の見学会	38
図 92 「南河内の縄文遺跡を探る展」関連講演会	38
図 93 府立弥生文化博物館冬季企画展 「かけがえのない文化財を守る、伝える一大阪における 歩みと展望ー」	38
図 94 小学 6 年生の出前授業	38

## 表 目 次

表 1 原因別調査面積・件数一覧（面積：m <sup>2</sup> ）	1
表 2 地域別調査面積・件数一覧（面積：m <sup>2</sup> ）	1
表 3 平成 28 年度調査箇所一覧	3
表 4 物理探査の成果	20
表 5 馬の骨コラーゲンの保存状態	34
表 6 馬の骨コラーゲンの放射性炭素年代測定結果	34

表 7 平成 29 年度 文化財調査事務所での普及・啓発・公開 事業一覧	39
表 8 実物資料・複製資料長期貸出	42
表 9 実物資料・複製資料短期貸出	43
表 10 資料撮影、写真・図面等貸出・掲載	44
表 11 資料閲覧	46

## グラフ目次

グラフ 1 原因別調査面積	2
グラフ 2 原因別調査件数	2

グラフ 3 地域別調査面積	2
グラフ 4 地域別調査件数	2

## 平成 29 年度における埋蔵文化財調査の概況

### 調査件数と面積

大阪府教育委員会が平成 29 年度に実施した調査件数は、発掘調査が 6 件、確認調査が 4 件、立会調査が 37 件、試掘調査が 4 件の合計 51 件であった（表 3）。

調査面積は、一部を除き、発掘調査、試掘調査、確認調査、立会調査の調査面積合計は 7,998 m<sup>2</sup>である。調査件数については、前年度の平成 28 年度の 52 件からわずかに 1 件減少した 51 件であるが、調査面積は前年度比 76% で約 1/4 減少となった。

原因別で調査面積の推移をみると、平成 29 年度は前年度に比べ道路事業がわずかに増加しているが、住宅事業が大きく減少しており、調査面積減少の大きな要因となっている。また、下水、河川事業は前年度と同様調査面積が 0 であった（表 1）。

地域別で調査面積の推移をみると、平成 29 年度は前年度と同様泉北地域での調査面積が他地域よりも多く、調査面積全体の約 7 割を占めている。次いで南河内地域である。これは両地域での道路や住宅建設に伴う発掘調査を前年度から継続して実施しているためである。一方で、中河内地域での調査は前年度に比べて減少している（表 2）。

過去 10 年における調査件数、調査面積のデータを概観すると、昨年度の分析と同様、年度によって多寡があるものの、全体的に減少傾向である。ただ、調査件数については、平成 29 年度は前年度とほぼ同件数であり、平成 26・27 年度と比較するとここ 2 年は若干の増加傾向といえる。しかしながら、調査面積については、減少傾向が続いている。平成

表 1 原因別調査面積・件数一覧（面積：m<sup>2</sup>）

年度 原因	20 年度		21 年度		22 年度		23 年度		24 年度		25 年度		26 年度		27 年度		28 年度		29 年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数										
住宅	488	8	1,799	9	6,454	14	6,227	12	124	9	727	10	1,800	5	108	8	4,616	7	745	5
農林	672	3	587	4	1,754	4	1,254	3	1,741	3	1,995	4	959	4	264	2	20	2	224	5
道路	10,468	17	5,629	21	4,968	27	5,255	20	6,404	25	6,988	22	2,138	8	3,778	17	5,239	11	6,255	19
下水	7,787	5	6,417	8	1,011	16	1,650	9	16	1	8	1	0	1	118	2	0	2	0	0
河川	10	2	0	1	36	4	0	1	48	1	0	0	0	2	0	2	0	2	0	0
学校	140	1	361	5	0	1	318	2	78	3	760	4	10	2	50	1	0	6	46	3
その他	298	9	3,189	16	563	30	888	33	2,120	43	4,155	23	4,535	23	597	13	635	22	728	19
合計	19,863	45	17,982	64	14,786	96	15,592	80	10,531	85	14,633	64	9,442	45	4,915	45	10,510	52	7,998	51

表 2 地域別調査面積・件数一覧（面積：m<sup>2</sup>）

年度 原因	20 年度		21 年度		22 年度		23 年度		24 年度		25 年度		26 年度		27 年度		28 年度		29 年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数										
大阪市	0	0	30	2	85	4	3,209	10	98	3	414	5	2,621	3	22	3	150	7	173	6
泉 南	4,069	8	2,100	6	1,534	6	449	6	81	8	865	4	0	4	240	2	361	4	212	4
泉 北	6,519	8	3,822	7	4,444	9	1,552	7	1,166	6	1,139	5	0	2	2,757	6	9,181	11	5,782	8
南河内	6,534	9	7,945	10	2,620	12	1,691	9	3,985	14	7,367	11	1,742	9	653	11	619	8	598	5
中河内	2,104	11	190	14	1,212	28	2,224	13	1,091	21	686	18	317	9	141	10	135	9	0	1
北河内	4,940	10	3,619	13	3,616	21	2,086	12	1,391	9	116	5	559	5	800	3	0	4	94	12
三 島	2,969	10	89	6	1,205	11	2,336	20	2,673	22	712	15	867	10	254	5	60	7	91	6
豊 能	204	4	187	6	70	5	2,045	3	46	2	3,334	1	3,336	3	48	5	4	2	1,048	9
合計	27,339	60	17,982	64	14,786	96	15,592	80	10,531	85	14,633	64	9,442	45	4,915	45	10,510	52	7,998	51

29 年度は過去 10 年のなかで平成 27 年度に次いで少ない面積である。ちなみに平成 29 年度は、平成 20 年度と比較するとその 40% にまで減少している。こうした減少傾向をたどる要因としては、道路建設や住宅建設の新規事業等の大きな減少にある。

### 主な調査成果

平成 29 年度の調査成果については、6 頁以降におもな 10 件の発掘調査について掲載している。ここでは、これらのうち時代別に調査成果を概観する。

#### 縄文時代

岬町番川下流遺跡では、遺構に伴うものではないが、縄文時代晩期の土器が出土した。隣接するみさき公園内遺跡でも縄文土器が出土しており、当該期の縄文時代集落が近くにある可能性がある。

#### 弥生時代

和泉市府中遺跡の 1 区において、弥生時代中期の竪穴住居 1 基、弥生時代末から古墳時代初頭にかけての竪穴住居 3 基や掘立柱建物 3 棟などが見つかった。平成 28 年度までの調査成果を含めると、弥生時代中期から古墳時代中期にかけて集落が展開していることが確認できた。番川下流遺跡では、自然流路から埋没過程で廃棄されたとみられる製塩土器が多量に見つかった。製塩土器は弥生時代から古代までの時期幅があるほか、淡輪技法の埴輪片も出土している。そのほか、被熱小土坑の性格などが検討課題である。

#### 古墳時代

府中遺跡の 2 区では、平成 28 年度調査区と同

様、南を流れる横尾川の支流などの氾濫の影響を受けており、弥生時代中期から古墳時代初頭までの土器を多量に含んだ河川埋没後の上面や川岸の平坦地において、古墳時代中期から終末期にかけて遺構が広がっていることが判明した。なお、川原石を敷き詰めた石敷き遺構が2基見つかっており、うち1基は鳥足文タタキを施した硬質の韓式系の甕を破碎して覆っているなど、特徴的な遺構である。富田林市宮町遺跡では、古墳時代後期以降の掘立柱建物を構成する柱穴が多数検出された。柱穴は一辺20~40cm程度の規模で、概ね東西方向を向いており、羽曳野丘陵と並行して南北方向にのびる段丘上に形成された集落遺跡である。また、調査区内からは埋葬施設は残存していないものの一辆5.5mの小方墳が1基見つかった。下層には円形墓が重複する珍しい事例であり、本報告で築造時期等について詳細な検討がなされる予定である。堺市百舌鳥本町遺跡の調査では、すぐ東方に大王陵級の土師ニサンザイ古墳が築かれていることから、古墳時代の遺構が広がることも見込まれたが、円筒埴輪片が数点出土したもの、粘土取り坑の残欠を複数確認するにとどまった。

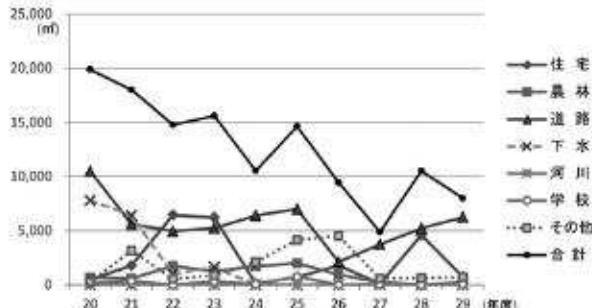
#### 古代

大阪市長原遺跡では、平成25・26年度調査で検出した溝の延長にあたる、7世紀後半には廃絶した溝などが見つかった。また、その他の溝や段は、周辺の残存地割から条里制施行以前と以後の時期に分かれることが推測されている。

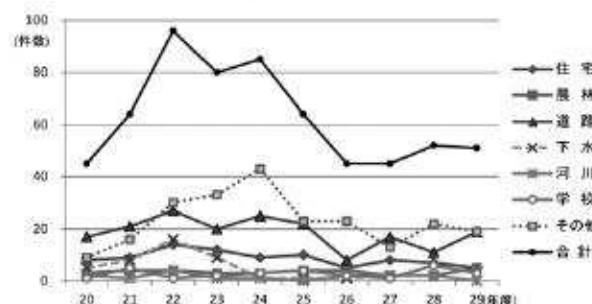
#### 中世

堺市宮園遺跡では、平成28年度と同様、谷筋や

グラフ1 原因別調査面積



グラフ2 原因別調査件数



粘土採取土坑などが見つかった。粘土採取土坑では、中世だけでなく、近世から近代まで時期が広がることが確認された。泉佐野市安松田遺跡では、遺跡内での東大寺鎌倉期再建瓦生産の確証を得るために、磁気探査と地中レーダー探査を実施した結果、窯跡の可能性のある落込み1箇所と粘土採掘坑の可能性のある8箇所の落込みを確認する成果を得た。

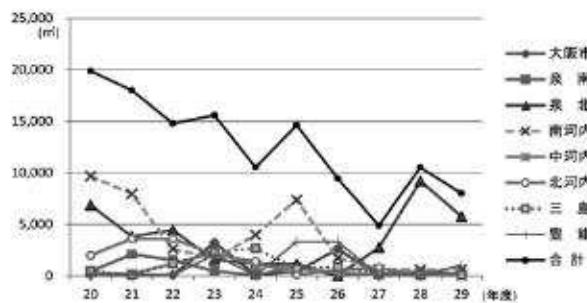
#### その他

大阪市諏訪遺跡では、明確な遺構は確認できなかったが、今回の調査で中世以前は湿地帯で、生産域になるのは近世以降であることなど、土地活用の過程が判明した。また、新規発見となった東田辺遺跡では、今後古墳時代を主とした遺構が見つかる可能性があることなどを確認することができた。河内長野市蟹井渕南遺跡では、遺構はまったく確認されず、中世の遺物が出土したもの二次堆積であり、当該地が近年の造成工事により形成されたものであることが確認された。

#### 発掘調査現場の公開等と遺物整理事業

発掘調査の現地公開については、和泉市府中遺跡と富田林市宮町遺跡において実施し、多数の参加を得た。また、3年目となる茨木市教育委員会との共催事業では、茨木市西福井遺跡から出土した縄文土器等を茨木市立文化財資料館で速報展示するとともに、西福井遺跡の縄文時代について講演会を実施した。このほか、発掘調査成果については速報的に本課のホームページにおいて逐次掲載している。また、遺物整理事業は4件実施し、大阪府埋蔵文化財調査報告として新たに3冊刊行した（小浜 成）。

グラフ3 地域別調査面積



グラフ4 地域別調査件数

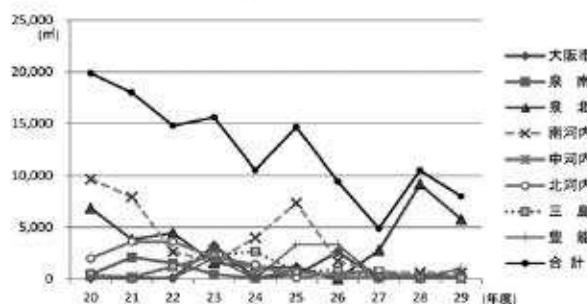


表3 平成29年度調査箇所一覧（1）

太字は本書に概要報告が記載されているもの

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積 (m <sup>2</sup> )	担当者	事業課	事業名
17001	府中遺跡（その3）	和泉市府中町	発掘	平成29年4月3日	平成29年8月25日	2072	市川 橋本 小林 岡部	交通道路室 道路整備課	都市計画道路大阪岸和田南海線街路整備事業
17002	長原遺跡	大阪市平野区長吉川辺三丁目	立会	平成29年4月5日	平成29年4月21日	-	宮野	大阪広域水道企業団東部水道事業所	送水管布設工事（藤井寺長吉バパス送水管）
17003	暗峯奈良街道	東大阪市吉田四丁目	立会	平成29年4月17日	平成29年4月17日	5	山田	交通道路室 道路環境課	一般府道大阪枚岡線電線共同溝整備工事その1（吉田地区）
17004	別井遺跡	富田林市別井	立会	平成29年4月18日	平成29年4月18日	-	山田	交通道路室 道路環境課	一般府道上河内富田林線外歩道設置工事
17005	平尾山古墳群（平尾山支群）	柏原市青谷	立会	平成29年4月18日	平成29年4月18日	3	岡田	交通道路室 道路環境課	一般国道308号外道路情報提供装置更新工事
17006	暗峯奈良街道	東大阪市東豊浦町	立会	平成29年5月15日	平成29年5月15日	4	岡田	交通道路室 道路環境課	一般国道308号外道路情報提供装置更新工事
17007	余部日置荘遺跡	堺市東区高松	確認	平成29年6月5日	平成29年6月9日	19	宮野	住宅まちづくり部 施設保全課	府営堺高松住宅既存中層エレベーター設置工事
17008	躰訪遺跡	大阪市城東区躰訪三丁目	確認	平成29年6月19日	平成29年6月27日	40	山田	教育厅施設財務課	大阪府立成城高等学校校舎棟改築工事
17009	遺跡外（新規発見 東田辺遺跡）	大阪市東住吉区東田辺二丁目	試掘	平成29年6月13日	平成29年6月13日	3	宮野 岡田	大阪府警察本部 施設課	大阪府東住吉警察署改築工事
17010	宮園遺跡	堺市中区宮園町	発掘	平成29年8月1日	平成29年12月8日	534	市川	住宅まちづくり部 住宅設計課	府営堺宮園第1期住宅（建て替え）道路整備事業
17011	百舌鳥本町遺跡	堺市北区百舌鳥本町	確認	平成29年9月11日	平成29年9月11日	5	岡田	大阪府警察本部 施設課	堺北警察署堺版と百舌鳥駅前交番建替工事
17012	桜井谷窯跡群	豊中市新千里南町	立会	平成29年9月27日	平成29年9月27日	-	宮野	公共建築室 住宅設計課	府営豊中新千里南第1期住宅建て替え工事
17013	谷川遺跡	富田林市谷川町	立会	平成29年10月2日	平成29年10月3日	-	山田	府立富田林中高一貴校記念館建設事業実行委員会	府立富田林中高一貴校記念館（仮称）新築工事
17014	佐堂遺跡	東大阪市金岡四丁目	立会	平成29年10月3日	平成29年10月4日	8	辻本	大阪広域水道企業団東部水道事業所分岐・八尾市ほか）1校区	配水管布設工事（八尾本館
17015	難波宮跡・大坂城跡	大阪市中央区上町一丁目	確認	平成29年10月5日	平成29年10月5日	4	市川	大阪府警察本部施設課	東警察署上町交番建替工事
17016	飯盛城跡	四條畷市南野	立会	平成29年10月16日	平成29年10月16日	60	岡田 橋本	農政室整備課	南野地区治山ダムほか（29.森林防災）工事
17017	岩倉開元寺参道跡 石仏の道 市指定	交野市愈治	立会	平成29年10月16日	平成29年10月16日	150	岡田 橋本 小林	農政室整備課	交野市倉治治山ダム工事
17018	宮町遺跡	富田林市宮町一丁目	発掘	平成29年11月1日	平成30年1月31日	687	山田	交通道路室 道路整備課	府道美原太子線（栗ヶ池地区）整備事業
17019	番川下流遺跡	泉南郡岬町淡輪	発掘	平成29年11月1日	平成30年2月28日	3223	宮野 市川 岬町 教委	岬町都市整備部二国推進課	町道海岸連絡線建設工事
17020	都呂須遺跡	吹田市元町	立会	平成29年11月2日	平成29年11月7日	9	岡田	大阪広域水道企業団北部水道事業所連絡官・吹田市）2工区工事	配水管布設工事（豊中・正雀
17021	前田池遺跡	泉南市馬場三丁目	立会	平成29年11月7日	平成29年12月14日	-	岡田	農政室整備課	前田池改修（H29）工事
17022	鬼塚遺跡	東大阪市南莊町	立会	平成29年11月2日	平成29年11月2日	-	小林	大阪広域水道企業団東部水道事業所	配水管路廃止管撤去工事
17023	高城B遺跡	吹田市元町・内本町・高浜町	立会	平成29年11月8日	平成29年11月8日	-	岡田	大阪広域水道企業団北部水道事業所連絡官・吹田市）2工区工事	配水管布設工事（豊中・正雀
17024	西諸福遺跡	大東市諸福六丁目	立会	平成29年11月6日	平成29年11月6日	-	小林	交通道路室 道路環境課	歩道設置
17025	蟹井源南遺跡	河内長野市天見	試掘	平成29年11月10日	平成29年12月4日	109	橋本	交通道路室 道路整備課	国道371号バイパス工事
17026	長原遺跡	大阪市平野区長吉川辺	発掘	平成29年11月28日	平成29年12月28日	120	辻本 小林	大阪広域水道企業団東部水道事業所	送水管布設工事（藤井寺長吉バイパス送水管）
17027	三宅遺跡	松原市三宅中四丁目	立会	平成29年12月8日	平成29年12月8日	-	岡田	大阪広域水道企業団南部水道事業所	あんしん給水栓改良工事（4.拡幅幹線・羽曳野市ほか）
17028	新金岡4丁遺跡	堺市北区新金岡四丁	立会	平成29年12月15日	平成29年12月15日	-	岡田	公共建築室 住宅設計課	府営新金岡4丁5番住宅解体撤去工事
17029	山賀遺跡	八尾市新泉町一丁目	立会	平成29年12月19日	平成29年12月19日	-	市川	大阪広域水道企業団東部水道事業所	地下埋設物調査工事
17030	遺跡外	羽曳野市伊賀三丁目	立会	平成30年1月18日	平成30年1月18日	60	岡田	交通道路室 道路整備課	一般府道西藤井寺線歩道空間整備工事
17031	玉手山遺跡	柏原市円明町	立会	平成30年1月10日	平成30年1月10日	3	辻本	大阪広域水道企業団南部水道事業所	送水管布設工事（河南連絡官・柏原ルート）
17032	百舌鳥本町遺跡	堺市北区百舌鳥本町一丁	発掘	平成30年1月15日	平成30年1月29日	40	橋本	大阪府警察本部施設課	北堺警察署堺版と百舌鳥駅前交番建替工事

表3 平成29年度調査箇所一覧(2)

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積 (m <sup>2</sup> )	担当者	事業課	事業名
17033	獨立遺跡	東大阪市旭町	立会	平成30年1月12日	平成30年1月12日	4	市川	大阪広域水道企業 団東部水道事業所	配水管路廃止管撤去工事(枚 岡北分岐加圧前・東大阪市ほか)
17034	遺跡外	吹田市岸部中四丁目	立会	平成30年1月26日	平成30年1月26日	30	岡田	交通道路室 道路環境課	都市計画道路豊中岸辺線街路 築造事業
17035	東郷遺跡	八尾市桜ヶ丘三丁目	立会	平成30年1月30日	平成30年1月30日	9	岡田	大阪広域水道企業 団東部水道事業所	工水本管(西)分岐既設井室 補修工事
17036	東弓削遺跡	八尾市八尾木東二丁目	立会	平成30年2月3日	平成30年2月4日	—	市川	大阪広域水道企業 団東部水道事業所	6 扯あんしん給水栓改良工事
17037	春木四ノ坪遺跡	岸和田市春木若松町	立会	平成30年2月6日	平成30年2月6日	4	辻本	交通道路室 道路環境課	堺阪南線道路照明灯設置工事
17038	春木宮ノ上遺跡	岸和田市八幡町	立会	平成30年2月13日	平成30年2月13日	4	岡田	交通道路室 道路環境課	堺阪南線道路照明灯設置工事
17039	阪防遺跡	大阪市城東区阪防三丁目	立会	平成30年2月13日	平成30年2月13日	6	山田	教育庁施設財務課	府立成城高等学校校舎等改築 工事
17040	三ツ鳥遺跡	門真市三ツ鳥四丁目	立会	平成30年2月28日	平成30年2月28日	2	山田	交通道路室 道路整備課	一般府道深野南寺方大阪線
17041	西福井遺跡	茨木市東福井一丁目	立会	平成30年2月27日	平成30年2月27日	2	辻本	交通道路室 道路環境課	府道余野茨木線歩道設置工事
17042	日根野遺跡	泉佐野市日根野	立会	平成30年3月2日	平成30年3月2日	2	山田	農政室整備課	府管水利施設整備事業「泉佐 野第3期地区」
17043	瓜生堂遺跡	東大阪市若江西新町一 丁目	立会	平成30年3月14日	平成30年3月14日	30	岡田	大阪広域水道企業 団東部水道事業所	維持管理用人孔設置工事(工 水本管西・東大阪市ほか1箇 所)
17044	遺跡外	東大阪市小若江三丁目 から新上小坂	立会	平成30年3月16日	平成30年3月16日	28	市川	大阪広域水道企業 団東部水道事業所	分岐施設設置工事(東大阪市・ 上小坂分岐)
17045	藤波遺跡	泉佐野市南中権井	立会	平成30年3月13日	平成30年3月13日	12	山田	農政室整備課	府管水利施設整備事業「泉佐 野第3期地区」
17046	岡遺跡	松原市岡二丁目	立会	平成30年3月19日	平成30年3月23日	192	宮野	住宅経営室施設保 全課	府管松原岡住宅未利用地基礎 撤去工事
17047	安松田遺跡	泉佐野市羽倉崎	立会	平成30年3月14日	平成30年3月15日	465	三木 井西	国庫補助事業	安松田遺跡物理探査
17048	はざみ山遺跡	藤井寺市	立会	平成30年3月27日	平成30年3月27日	—	岡田	大阪広域水道企業 団東部水道事業所	国道170号電線共同溝設置工 事
17049	遺跡外	高槻市上牧町四丁目	試掘	平成29年4月10日	平成29年4月10日	20	岡本	西日本高速道路 (株)関西支社新 名神大阪東事務所	新名神高速道路(八幡～高槻 建設工事)
17050	遺跡外 (成合遺跡隣接地)	高槻市成合	試掘	平成29年12月4日	平成29年12月4日	30	岡本 藤井	西日本高速道路 (株)関西支社新 名神大阪東事務所	新名神高速道路(八幡～高槻 建設工事)
17051	大和川今池遺跡	松原市天美西七丁目	立会	平成30年2月19日	平成30年2月19日	—	岡本 藤井	阪神高速道路(株) 明建設部	阪神高速道大和川線(電気室) 建設工事



【主要発掘調査概要報告】

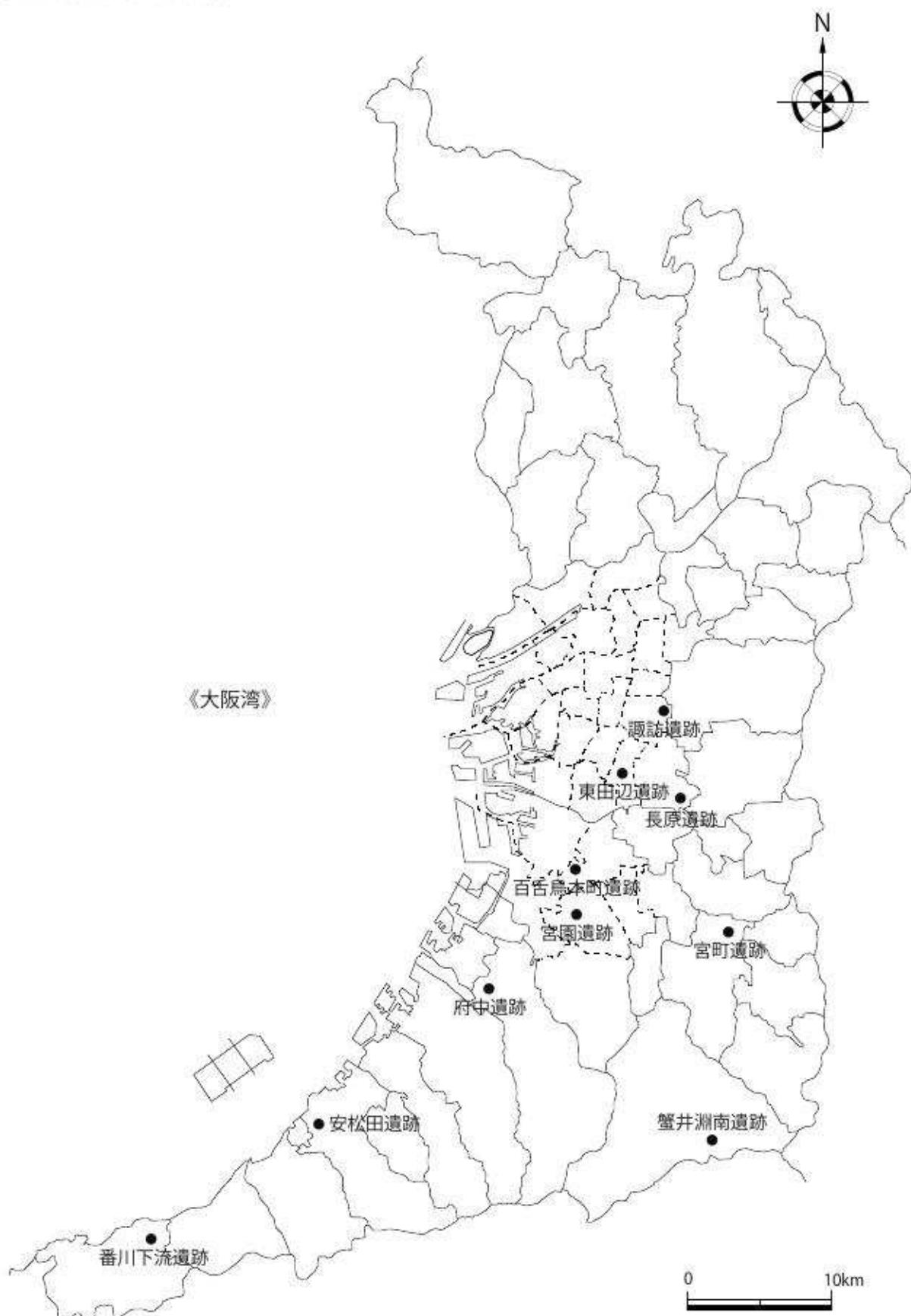


図2 主要調査位置図

本物語

- (1) 和泉市府中町
  - (2) 都市計画道路大阪岸和田南海線街路築造事業
  - (3) 市川創・橋本高明・小林義孝・阿部幸一

はじめに

府中遺跡は和泉市府中町に所在し、東西約1km、南北約1.2kmの規模を有し、和泉寺跡を含む比較的広範囲に及ぶ遺跡である。今回の調査は都市計画道路大阪岸和田南海線街路築造事業に伴うもので、平成17年度の路線予定地内の試掘調査に始まり、平成21年度以降断続的に発掘調査を実施している。

今回の調査地点は大きく2カ所に分かれ、北側の調査区を1区、南側の調査区を2区として調査を進めた。

## 1 区の調査成果

主な調査成果としては、1区では弥生時代中期の竪穴住居跡（竪穴1）をはじめ、弥生時代末から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡（竪穴2、3、4）や掘立柱建物跡（建物1、2、3）、土坑、古墳時代後期の大溝などの遺構が検出され、集落域の様相を示している。

竪穴1の平面形は、約半分を欠損しているものの、1辺約5mの隅丸方形プランを呈し、4ヶ所の柱穴と住居の中央に炉跡を確認した。炉跡は直径約40cm、深さ約30cmの土坑状のもので、底には少量の炭が残っていた。また、住居の壁に沿って壁溝がめぐる。出土品としては、住居の床面に飯蛸壺や壺の蓋がある。

竪穴2は、南北が3.4m、東西が3mの方形プランで、小型の竪穴住居跡である。住居の中央に深さ5cm程度の浅い炉跡を確認したが、柱穴は見られない。炉跡の壁や底は赤く変色し、その上部に少量の炭も残していた。住居の壁に沿って壁溝がめぐる。出土品は少量の土器がある。

竪穴3は住居跡の半分以上が調査地外にのびる。おそらく一辺6メートル程度の方形プランの竪穴住居跡と考えられる。柱穴は1カ所確認した。住居の壁に沿って壁溝がめぐる。出土品は少量の土器がある。

建物1は桁行2間、梁行1間の東西棟で、建物面積は9m<sup>2</sup>である。

建物2は一部建物1と重複しているが、前後関係は不明である。桁行3間、梁行1間の東西棟で、建物面積は16.4m<sup>2</sup>である。

建物3は一部が調査枠外である。桁行3間、梁

行1間の東西棟で、建物面積は11.7m<sup>2</sup>である。

大溝は、1区の中央付近を東西方向に直線的に横断している。幅は3m前後、深さは50~60cmで、最終的には砂礫層で埋没している。埋没時期は、出土した須恵器から6世紀末~7世紀前半と考えられる。

## 2区の調査成果

2区では、南北方向に流れる河川跡を検出した。河川を埋め尽くした砂礫層内には、弥生時代中期から古墳時代中期までの土器が多量に含まれていた。また、川岸の平坦地や一部埋没した河川の上面において、古墳時代の中期～終末期の時期の遺構を検出した。

これらの遺構は、河原石を地面に平たく敷き詰めた石敷きの遺構（石敷き遺構1、2）を2基、河原石を積み上げた石積みの遺構（石積み遺構）を1基、須恵器や土師器が点在する遺構群などである。

石敷き遺構1は、河原石を敷き詰めた石敷きの上部を、韓式系土器の甕の破片で覆う。甕の肩部外面には「鳥足文」が見られる。

石敷き遺構2は、河原石を長方形（長辺1m、短辺30cm）の範囲に敷き詰めている。

石積み遺構は、埋没した河川の上部にあり、河原石を長方形（長辺 1.2 m、短辺 90 m）の範囲に敷き詰めた上に、約 50cm の高さで石を積み上げている。

その他、完形品あるいは完形品に近い須恵器や土師器が点在する遺構がある。これらの遺構は土器を埋めた掘方の輪郭もはっきりせず、土器だけが埋まったように見える。時期的には古墳時代後期に集中する。



圖 3 調查地位置圖



図4 1区全景



図5 2区石敷き遺構1



図6 2区石敷き遺構1（下部の石敷き）



図7 須恵器・土師器が点在する遺構



図8 須恵器が点在する遺構

## 諏訪遺跡（17008）

- (1) 大阪市城東区諏訪三丁目
- (2) 大阪府立成城高等学校校舎棟改築工事
- (3) 山田隆一

### はじめに

諏訪遺跡は、古墳時代～中世の生産遺跡として周知されている。調査地は長8m、幅5mの40m<sup>2</sup>であり、調査期間は2017年6月19～27日である。

### 調査結果

土層（図12） 西壁で土層断面図を作成した。

- ①：学校築造時の盛土。②：現代耕作土。
- ③④：近世以降の耕作土と考えられるシルト質土。
- ⑤：褐灰色粘土に⑥起源の粘土ブロックが入る。
- ⑥～⑪：湿地の自然堆積。⑨以下でラミナ形成。

遺物（図13） 1は⑥層出土の東播系須恵器鉢。内面ナデ仕上げ、底部回転糸切り。12・13世紀程度。2は⑧層出土の土師器杯。粗製品、口縁横ナデ。古代の所産であろう。なお⑤層から瓦器片が出土した。

### まとめ

現地は中世以前は湿地、近世以降に生産域になったと考えられる。遺構は未確認である。



図9 調査地位置図



図10 調査地全景（南から）



図11 調査地西壁断面（東から）

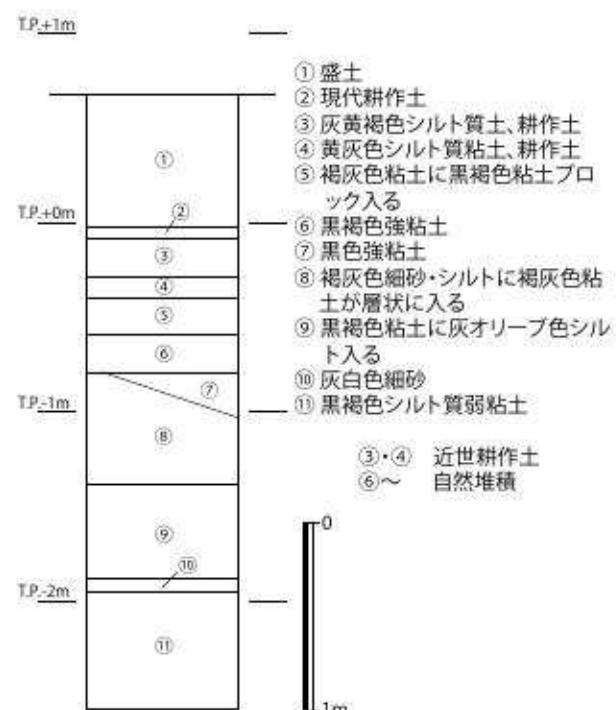


図12 西壁土層断面図

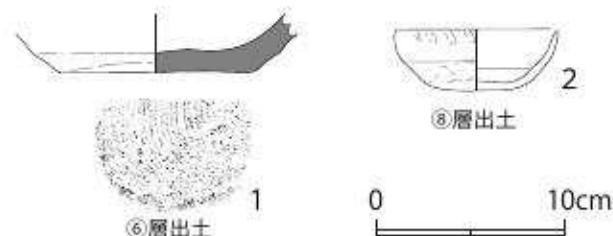


図13 出土遺物実測図

## 東田辺遺跡（17009）

- (1) 大阪市東住吉区東田辺二丁目
- (2) 大阪府東住吉警察署改築工事
- (3) 岡田 賢・宮野淳一

### はじめに

大阪市東住吉区に所在する東住吉警察署の改築工事に伴い、事業予定地内に  $1.5\text{ m} \times 1.5\text{ m}$  の調査区を1カ所設定し、平成29年6月13日に試掘調査を実施した。

### 調査成果

**【土層】** 現況から1mほどは、盛土（0層）及び近現代の耕作土（1・2層）である。2層以下は遺構埋土（3層・6層・7層）、整地層（4層）が確認され、最下層は段丘構成層（8層）である。2層下面での標高は、T.P.+5.1～5.2mで、8層上面の標高は、T.P.+4.9mである。（図15）

**【遺構】** 段丘構成層である8層上面では、7層下面から掘り込みが確認できるピットが2基確認された。時期は不明であるが、3層から古墳時代の土師器が出土しているので、古墳時代以前である。また3層は4層を切る溝等の遺構の可能性がある点、4～7層についても堆積状況より、これ自体が遺構の埋土の可能性があると指摘することができる。

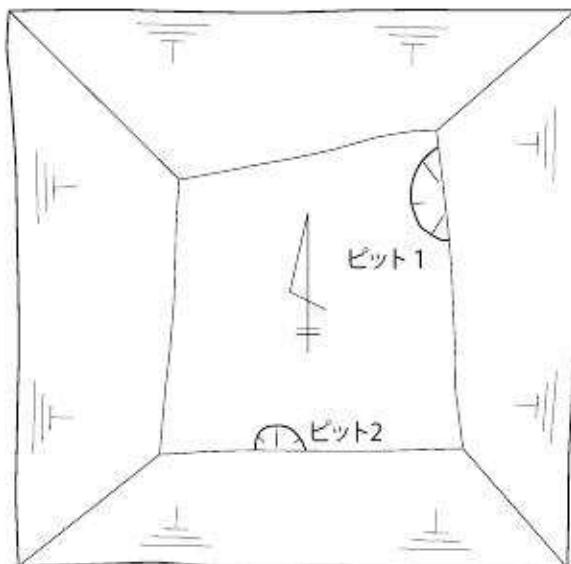
**【遺物】** 3層より古墳時代に属する土師器の破片が複数出土した。これらは高環の脚部、甕の体部等の破片であり、古墳時代の中期から後期頃に属するとみられる。他の堆積層からは、今回の調査では遺物は出土しなかった。

### まとめ

今回の調査では、現在の地表面下より約1.0m（T.P.+5.1～5.2m）で、古墳時代の遺物を含む土層（3層）が確認され、また段丘構成層（8層）上面では2基のピットが確認された。さらに4層を切る3層および4～7層についても遺構の埋土である可能性が考えられる。したがって古墳時代（およびその前後の時代）を中心として、本調査区周辺には、当該期の遺構、遺物が広がっている可能性が高いと考えられる。この調査結果を受けて当該予定地は平成29年度新規発見遺跡、東田辺遺跡となった。



図14 調査地位置図



- 0: 現代盛土
- 1: 黒灰色炭を含む砂質シルト(作土)
- 2: 灰色礫を含む砂質シルト(作土)
- 3: 灰褐色細砂質シルト(遺構埋土か)
- 4: 灰褐色炭を含む7及び8の偽礫(整地土)
- 5: 黒灰色細砂質シルト
- 6: 灰褐色シルト(遺構埋土)
- 7: 灰褐色シルト質砂(遺構埋土)
- 8: 黄褐色粘土質細から中粒砂(段丘構成層)

図15 調査区平面図及び南壁断面図

## 宮園遺跡（17010）

- (1) 堺市中区宮園町
- (2) 府営堺宮園住宅第1期住宅（建て替え）道路整備事業
- (3) 市川 創

### はじめに

宮園遺跡は、平成22年に府営住宅の建替え計画を受けて実施した試掘調査により新たに発見した遺跡である。遺跡範囲は府営住宅の敷地、およそ21haに広がっている。

平成27年に第1期建替え事業が着手され、既存建物4棟が解体撤去された。その跡地に建築される2棟の高層棟と道路及び地下雨水貯留槽を発掘調査の対象として平成28年度に調査を行い、その報告書を平成29年度末に刊行している（大阪府教育委員会2018『宮園遺跡』）。今年度は道路整備に関わる部分の発掘調査を実施した。調査は平成29年8月に開始し、同年12月に終了した。

### 調査成果

今年度の調査は市道八田北深井沢線の南側で線状に約300m実施した（図16・17）。西から第1調査区(111m<sup>2</sup>)、第2調査区(309m<sup>2</sup>)、第3調査区(114m<sup>2</sup>)とし、調査の総面積は534m<sup>2</sup>である。

地層の基本的な堆積状況は平成28年度に実施した調査と同様であり、上位から現代盛土、第1層（近現代耕作土）、第2層（中世耕作土）、第3層（整地層）、第4層（谷地形内の自然堆積層）、第5層（段丘構成層）となる。

主たる遺構は、各調査区の第2層下面および第5層上面で検出された。このうち第1・2調査区では谷状の地形を、また各区で中世以降の粘土採取土坑や土坑（図18）を検出している。このうち第1調査区で検出した谷状遺構は平成28年度に検出した遺構に連続するものである。第2調査区で検出した

遺構は、これとは別の谷筋に連なるものであろう。

粘土採取土坑の時期は、15世紀を中心としつつ、古いものでは13世紀、新しいものでは近代のものもあった。なお近世以降の粘土採取土坑は第3調査区でのみ検出している。また近世以降の粘土採取土坑では、粘土採取ののち、当初の水田面よりも低い高さで水田を復元する場合があることがわかった。そのほか、第3調査区の粘土採取土坑が認められなかった箇所では第5層が現地表直下で検出される箇所もあった。

### まとめ

宮園遺跡で2回目となる今次の発掘調査では、おおむね平成28年度に実施した調査と同様の結果を得ることができた。ただ、新たな谷筋を検出したほか、近世以降の粘土採取土坑を検出するなど、今次の調査で新たに得られた情報もあった。第3調査区では第5層が高く残されていたが、さらに東方に位置する深井幡池遺跡では土師器の焼成土坑を含む奈良時代の遺構・遺物が検出されている。今後、今次調査よりも東方では、古代の遺構が残存する可能性も考慮すべきだろう。



図17 調査区配置図



図16 調査地位置図（破線内）



図18 第1調査区瓦器椀出土状況

## 宮町遺跡（17018）

- (1) 富田林市宮町一丁目
- (2) 府道美原太子線（栗ヶ池工区）整備事業
- (3) 山田隆一

### はじめに

宮町遺跡は、古墳時代から中世におよぶ集落遺跡である。平成28・29年度、国道170号から東にのびる道路建設予定地の発掘調査を実施した。調査地は長さ72m、幅15mであり、今年度はその北半の幅8m分を調査した。

### 調査結果

#### 遺構の分布（図20）

2年分の遺構写真で、上半が今回の調査地である。調査地の地形は、東半が高く、西に向かい低くなる。溝001は、その間にあって高所を開むようにやや湾曲して掘削される。時期は古墳時代後期で、東方に同時期の遺構が集中するので、集落の西辺に掘られた溝と考えられる。他に古墳1基、掘立柱建物や溝などが確認できた。

#### 柱穴の集中（図21）

東西約10m、南北8m以上の範囲に多数の柱穴が重複して確認できた。一辺20~40cm程度の方形の柱穴が多く、概ね正方位を向く。掘立柱建物2棟が復元できたが、時期は不明である。なお写真左

側の溝305は6世紀後半であり、柱穴はいずれも溝より新しい時期である。

#### 古墳（図22）

周濠を巡らせる小型の方墳である。墳丘規模は平面が5.5m四方で、高さ30cm程度が残存していた。埋葬施設は残らない。周濠内から、多数のTK47~TK43型式の須恵器と布留式後半の土師器片が混在して出土した。なお最終的な下層確認により、円墳が重複することを確認した。周濠内遺物の前者が方墳の時期、後者が円墳の時期を示すと考えられる。

### まとめ

今回の調査では、新たに古墳時代から奈良・平安時代におよぶ集落遺跡が発見された。中世以降は田畠になる。調査地は遺構集中部が最も高く、西方に低くなると共に東方にも下がる。宮町遺跡は、南北方向にのびる高まり上に形成された集落であることがわかった。



ほんがわかりゅう

番川下流遺跡 (17019)

- (1) 泉南郡岬町淡輪
  - (2) 岬町道海岸連絡線建設工事
  - (3) 小川正純(岬町教育委員会)・宮野淳一・市川創

はじめに

番川下流遺跡は、和泉山脈から流下する番川の流域に形成された遺跡であり、東西・南北とも約400メートルの範囲に拡がる(図23)。

当遺跡の南には5世紀前半築造とされる西陵古墳(墳丘長約210m)、遺跡の東には5世紀中頃～後半築造とされる宇度墓古墳(墳丘長約170m)がある。泉州地域を代表するこの2基の巨大前方後円墳はともに淡輪技法と呼ばれる特徴的な製作技術で作られた埴輪を有しており、とくに古墳時代における成果が注目される地域である。

現在、当地域において町道海岸連絡線の建設が計画されており、その道路用地部分のうち、試掘・確認調査によって発掘調査が必要であると判断された範囲について、本府教育委員会と岬町教育委員会が共同で調査を実施した（図24）。調査期間は平成29年10月から平成30年2月であり、調査面積は計約2500m<sup>2</sup>である。

調査成果

調査前の現況は耕作地であり、1筆ごとに高低差などがある状況であった。地層の基本的な堆積状況は、最上層に現代の耕土（第1層）があり、その下位に中世の作土層とみられる遺物包含層（第2層）がある。その下位の地層は箇所によって異なり、自然流路内には暗色化した細粒砂～シルト層（第3層）が堆積していた。第3層からは弥生時代以降、古代までの遺物が出土している。その下位は全調査区に共通した状況として、河成の砂礫層（第4層）が堆積していた。第4層については自然流路部で部分的な深掘りを実施したが、厚さ1.3m以上にわたって連続しており、下限は確認できなかった。また第4



図23 調査地と周辺の遺跡

層から遺物は出土していない。なお、第2調査区の一部において、部分的に段丘構成層と考えられる地層（第5層）が残存していた。

各調査区における遺構・遺物の検出状況はおおむね共通しており、土坑・溝のほか、自然流路の跡などを検出している。

特筆すべき点としては、第1調査区では製塙土器の出土を挙げることができる。自然流路が埋没する過程で投棄されたもので、形態的特徴からみて弥生時代末から古代にかけての資料が含まれているとみられ、時間幅がある。

第2調査区では、遊離資料ではあるが縄文時代晩期の土器が出土したほか、自然流路が埋没する過程の緩斜面に掘削された小土坑群が注目される。これらの小土坑はその壁面が被熱しており、火を用いる何らかの作業が当地で行われていたと推測される。

そのほか、第3調査区からはいわゆる淡輪技法により製作された円筒埴輪やタコ壺が出土していることが注目される。

七六

上記のように、今回の調査では縄文時代以降の遺物が出土したほか、製塙土器やタコ壺、埴輪など、遺跡の性格を表す可能性がある遺物が出土したことが特筆できる。整理作業を進めるなかで、過去に実施された本遺跡における調査成果、および西陵古墳を含む周辺遺跡における知見、さらに自然科学的な分析結果も踏まえつつ、遺跡の評価を行いたい。

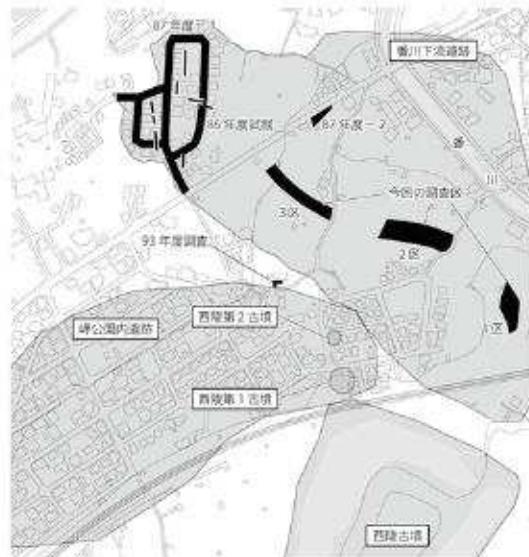


図 24 調査区の配置

## 蟹井淵南遺跡（17025）

- (1) 河内長野市天見
- (2) 国道371号バイパス工事
- (3) 橋本高明

### はじめに

蟹井淵南遺跡は河内長野市天見に所在し、天見川にそそぐ「島の谷」の右岸に位置する。今回は「島の谷」を横断する一般国道371号建設に伴い、事前に確認調査を実施した。また、「島の谷」左岸の地域についても試掘調査を実施した。

調査対象地は急斜面であること、重機の進入路が確保できないことから、調査トレンチ（22ヶ所 109m<sup>2</sup>）は人力において掘削した。各トレンチの土層の変化、遺構・遺物の有無を確認した。各トレンチの大きさ・面積は以下のとおりである。

No. 1～8、A～1トレンチ（1 m×1 m）	17m <sup>2</sup>
No. 9・10-1トレンチ（1 m×10 m）	20m <sup>2</sup>
No.10-2トレンチ（1 m×28 m）	28m <sup>2</sup>
No.11トレンチ（1 m×4 m）	4 m <sup>2</sup>
No.12トレンチ（1 m×40 m）	40m <sup>2</sup>

### 調査の概要

「島の谷」右岸の遺跡内に設置したトレンチは平坦面（段々畑）上、あるいは「島の谷」に流れ込む谷部分に設定した。

No. 1・2トレンチは、最高所に設定したもので地表面の高さはT.P.+260 mを測る。No.1では表土の直下に淡茶灰色粘質土からなる地山を検出した。No. 2トレンチでは表土、暗黄灰色土の直下に地山を確認した。いずれも、遺構・遺物は確認しなかった。

No. 3～5トレンチは、谷部分に設定したもので、上層より表土（耕作土）、暗灰青色土（旧表土）、淡黄灰色砂質土、暗黄灰色粘質土の順に見られ、その直下は灰白色粘土からなる地山になる。地山直上の2層は谷の埋土と考えられ、瓦器小片、土師器小皿や近世陶磁器が出土した。No. 3・4では地表面から約70cmで地山となる。

No. 6～8トレンチは、上記の谷の東側の段々畑上に設置した。No.6では表土、床土の直下に、暗黄灰色砂礫土（崩落土）、暗黄灰色砂、暗灰黄色砂礫土（崩落土）と続く。No. 7は表土、床土、暗黄灰色砂礫土（崩落土）の直下は黄茶色砂礫からなる地山を確認した。またNo. 8では表土直下が地山であった。いずれのトレンチも遺構・遺物は認められなかった。

No. 9トレンチは「島の谷」に流れ込む谷の下部に設定した。表土、旧耕作土、床土の直下には、ト

レンチ北側の下層に暗灰色粘土が見られ、谷内の堆積層と考えられる。その南側に白灰黄色砂礫の河川堆積層が被る。さらにその南側には暗黄灰色土による盛土が見られ、平坦面を形成したことがわかる。

No.10-1・2トレンチは、No. 9トレンチと同じ平坦面の西側に設定した。No.10-1トレンチは上層



図25 調査地位置図

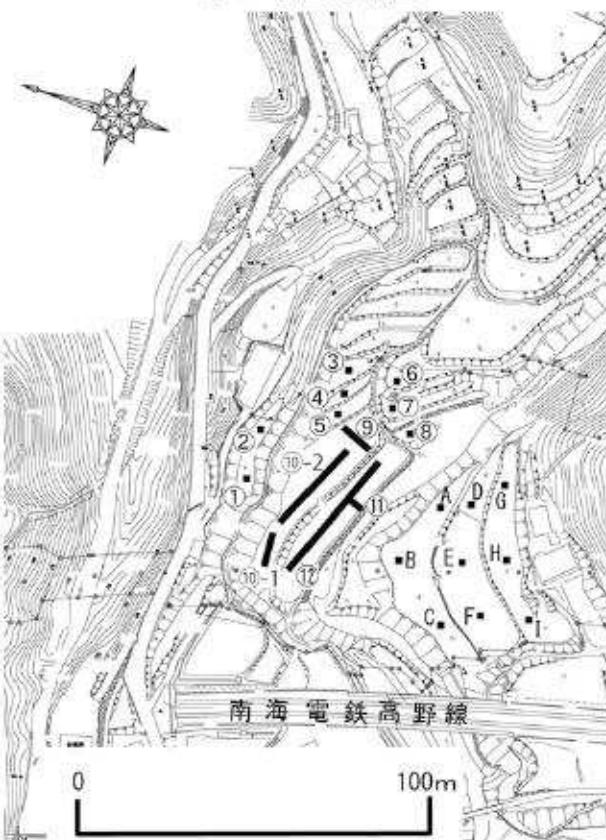


図26 調査区位置図

の表土（耕作土）・床土の下層には、旧耕作土の上部に灰黄色砂質土（崩落土）による盛土が見られ全体を地上げしている。その下層は、暗黄灰色系の砂質土が3～4層、20cm前後の厚みで水平に堆積しており、耕作土と考えられる。No.10-2トレンチも基本的な層序はNo.9に似ている。トレンチの東端には淡白灰黄色砂礫の河川堆積層が見られ、西に向かって崩落土による盛土で平坦面を形成している。

No.11トレンチは下段の平坦面に東西方向に設定したNo.12トレンチの西端から27m付近に、川に向かって直角方向に設定した。表土・床土の直下に、現在の護岸から約2m北側に石積護岸を検出した。

No.12トレンチの西端から17m付近で確認した石積と一連のもので、旧護岸と思われる。

No.12トレンチの基本的な層序を見ると、表土・床土の下層は、旧護岸の東側では河川堆積、西側では崩落土による盛土である。

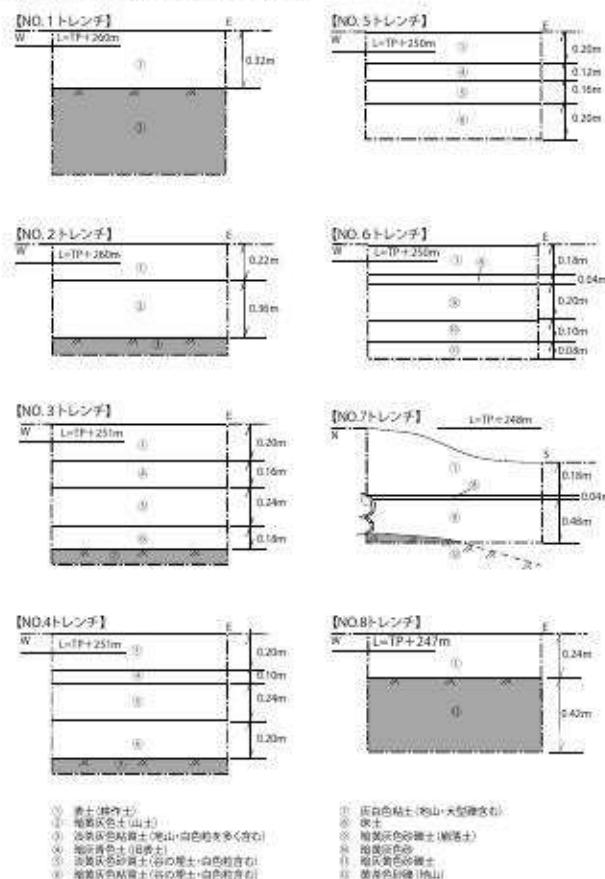


図27 1から8トレンチ断面図

#### [A～Iトレンチ]

各トレンチは「島の谷」左岸の平坦面（段々畑）上に設定した。

A～Cトレンチは段々畑の下段に設定した。いずれのトレンチも上層から表土（耕作土）直下に暗灰色系の砂質土が見られ、その直下は黄灰色礫土からなる地山となる。地山面の高さは、T.P.+249m前後である。遺構・遺物は認められなかった。

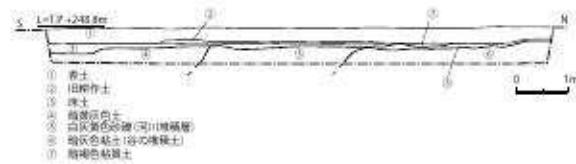


図28 9トレンチ断面図(上)・10-1トレンチ断面図(下)

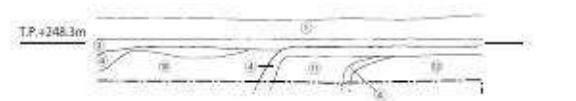
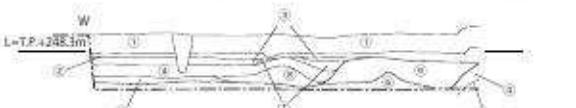


図29 10-2トレンチ断面図

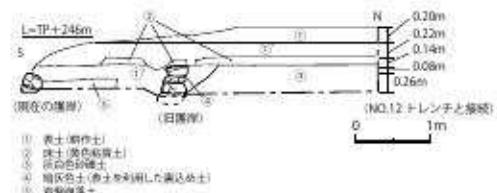


図30 11トレンチ断面図

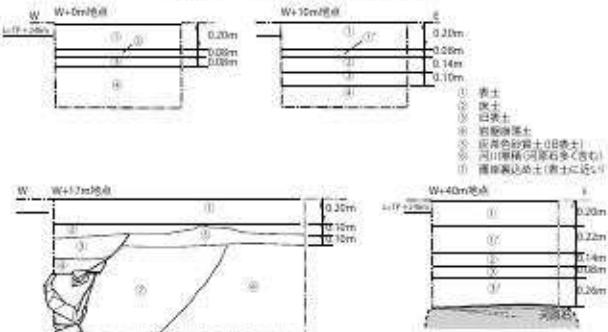


図31 12トレンチ断面図

D～Fトレンチは中段に設定した。表土（耕作土）の直下に黄褐色土の床土がある。E・Fトレンチでは床土の直下に暗褐色土（崩落土）が見られ、その下層は黄灰色礫土からなる地山である。Dトレンチは床土直下に地山が見られ、地山面を切り込む「落ち込み」を確認したが、現代の攪乱である。地表面の高さは、T.P.+251m前後である。遺構は認められ

なかった。床土から少量の瓦器碗や陶磁器が出土した。

G～Iトレントは上段に設置した。上層より表土、床土、暗褐色土まではE・Fトレントとほぼ同様であるが、その直下に黒褐色土の堆積が見られる。20～30cm程度の大礫を含み、崩落土と考えられる。いずれも1m程度掘り下げたが、地山は確認できなかった。地表面の高さは、T.P.+252m前後である。遺構・遺物は確認できなかった。

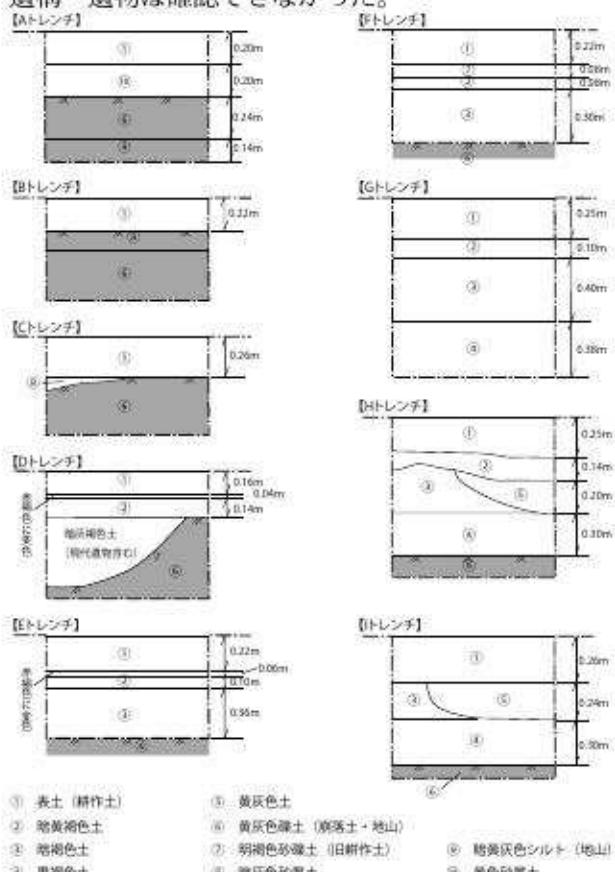


図32 試掘トレント断面図

### まとめ

今回の調査では、「島の谷」の右岸に現在みられる平坦面（耕作地）は、河川敷に地山の崩落土をベース（盛土）にして地上げを行い、「離壇」造成して耕作地として利用していたことがわかった。

造成の時期として、現状では付近に大型重機の進入路がないことから、昭和50年代の南海高野線複線化工事に合わせて、実施されたものと考えられる。

左岸についても、旧表土や明瞭な遺物包含層は確認できず、平坦な地形は近年に造成されたと考えられる。

出土遺物については、土師器、瓦器、陶磁器、軒丸瓦など中世期に属する遺物が出土した。しかし大半の出土品は、表土（耕作土）及び床土等の客土中に含まれていたもので、元来調査地付近に存在したものではないと考えられる。



図33 調査対象地（島の谷を挟む）



図34 9から12トレント



図35 1トレント



図36 8トレント



図37 9トレント



図38 12トレント

## 長原遺跡（17026）

- (1) 大阪市平野区長吉川辺
- (2) 送水管布設工事（藤井寺長吉バイパス送水管）
- (3) 小林義孝・辻本 武

### はじめに

長原遺跡は大阪市平野区の南東部に位置し、旧石器時代から近世に至る各時代の遺構が残る複合遺跡である。今回は、大阪広域水道企業団の長吉松原バイパス送水管築造工事に伴い、平成25・26度の調査に引き続いて、制水弁室や擁壁工事に先立って発掘調査を実施したものである。調査面積は120m<sup>2</sup>である。

### 調査の結果

1区で北西—南東方向に走る、幅1.8m、深さ0.4mの1-001の溝を検出した。埋土は上層が黄色シルト、下層が灰褐色シルトである。今回の調査では遺物は出土しなかった。この溝は平成25・26年度調査で検出された「溝2-001」の北西方向の延長に相当し、この時の調査では溝内の最上層から7世紀後半の須恵器環が出土したところから、この時期に廃絶した遺構と推定されている。なお今回調査の3区東端ではこの溝の南東方向の延長が確認されなかったので、溝は3区の外側を走るものと推定された。

1-001の溝に南接して並行する位置で、幅1.0～1.2m、深さ0.05mの1-003を検出した。非常に浅い溝で、平面の精査では検出が困難で、断面観察により遺構の存在を確認することができた。埋土は灰褐色シルト。出土遺物はなかった。時期は1



図39 調査地位置図

-001と同様に7世紀後半以前と考えられる。

2区の中央で、7つの小ピットが一列に並んで検出された。出土遺物はなかった。このピット列は溝の凹凸した底部が遺存したものと推定される。幅0.2m、方向が北北東—南南西での溝で、最近まで周囲で見られた条里制地割と違うところから、条里制施行以前の遺構と考えられる。

3区では溝2条と段、ピット4基を検出した。遺物は出土しなかった。溝と段は条里制地割の方向と一致するところから、時期的にかなり新しいものと推定される。またピットも同様の時期であろう。



図40 1区全景（北から、白線は1-001）

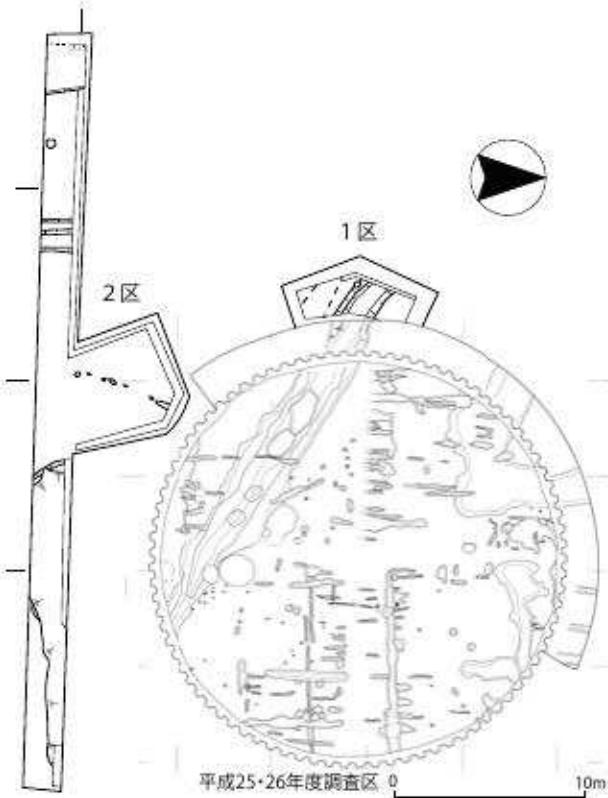


図41 調査区全体図

も す ほんまち  
百舌鳥本町遺跡（17032）

- (1) 堺市北区百舌鳥本町一丁  
(2) 北堺警察署阪和百舌鳥駅前交番新築工事  
(3) 橋本高明

### はじめに

百舌鳥本町遺跡は堺市北区百舌鳥本町に所在し、北には大山古墳、南には御廟山古墳、西にはミサンザイ古墳と巨大古墳に囲まれ、百舌鳥古墳群のほぼ中央に位置する。

今回は大阪府北堺警察署所管の「阪和百舌鳥駅前交番」新築工事に伴い、事前に発掘調査を実施した。調査対象地は平坦地で標高20m程度である。

調査トレーナーは、交番建設予定地(40m<sup>2</sup>)に設定し、上層の盛土及び旧耕作土を重機によって掘削し、下層を人力によって掘削した。

### 調査の概要

基本層序は現地表面から50cmまでは、現代の盛土①である。②、②'、③は旧耕作土層(層厚約20cm)である。旧耕作土を除去すると④黄灰色シルト層(層厚15~20cm)と⑤白黄色シルト層(約10cm)が見られる。④層の直下は⑥白黄色粘土層が認められ、地山と考えられる。

昭和36年に大阪府が作成した地形図をみると、当該地付近一帯の土地区画整理はすでに完了しており、現在の地割とほぼ同様になっている。しかし、土地の利用状況としては宅地化がさほど進んでおらず、水田または畑地であったことがうかがえる。したがって、①の盛土は昭和36年以降の所産といえる。

耕作土直下に認められる④層については、木材が混入すること(南西角)、旧耕作土がブロック状に認められることから、自然に堆積したものではなく、人為的な現代の盛土と考えられる。

⑥は地山と考えられるが、⑥層の上部には旧表土あるいは遺物包含層も確認できることから削平を受けているものと考えられる。また、地山の上面は凸凹が顕著である。

明確な遺構は、検出されたかった。ただ断面に見られる地山の凹凸や平面図に表された直径2m前後のほぼ円形を呈した土坑状の「落ち込み」を確認した。

出土遺物は、円筒埴輪片が数点出土した。いずれも小片であるが、黒斑は認められない。すべて旧耕作土層内より出土したものである。

### まとめ

今回の調査では、複数の土坑状の「落ち込み」を確認した。「落ち込み」の地山上面より窪んだ部分には⑥層が堆積している。⑥層は地山に酷似していることから⑥層が削れて流れ込んだものと考えられる。④層は先にも述べたように現代の盛土であることから、元来耕作土直下に存在したと思われる⑥白黄色粘土(地山)を採取した後に、④層を盛土して耕作面の高さを復元したと考えられる。したがって、現状の地山面に残る凸凹は、粘土取り(採取)の際に生じた「粘土取り坑」の底であると思われる。



図42 調査地位置図

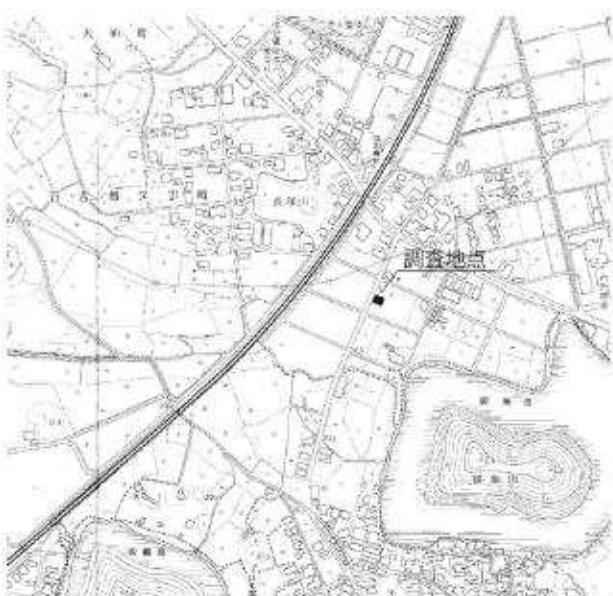
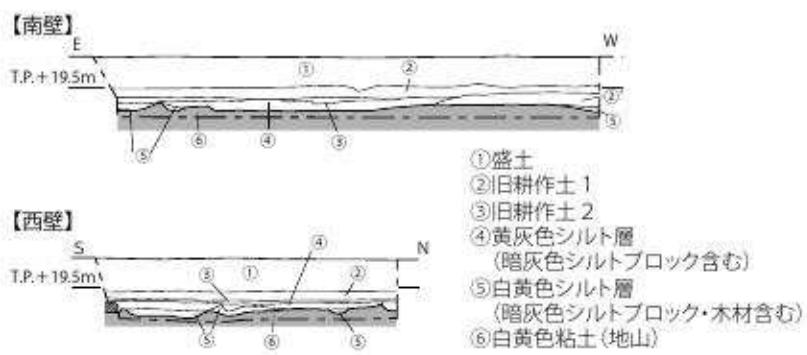
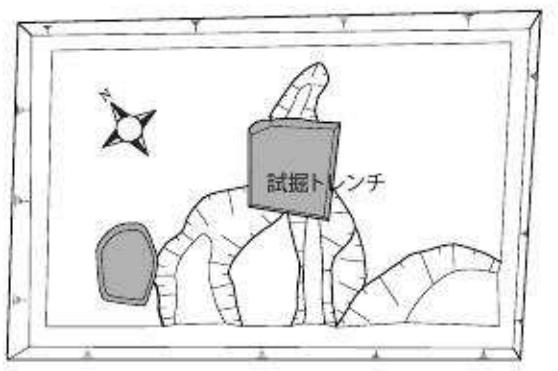


図43 昭和36年の調査地付近の地形図



□基 - 1  
X=-160010.348  
Y=-46912.798  
H= 20.019



□基 - 2  
X=-160010.348  
Y=-46912.798  
H= 20.013

図 44 南壁・西壁断面図・平面図



図 45 調査区全景 (南東から北西方向を望む)

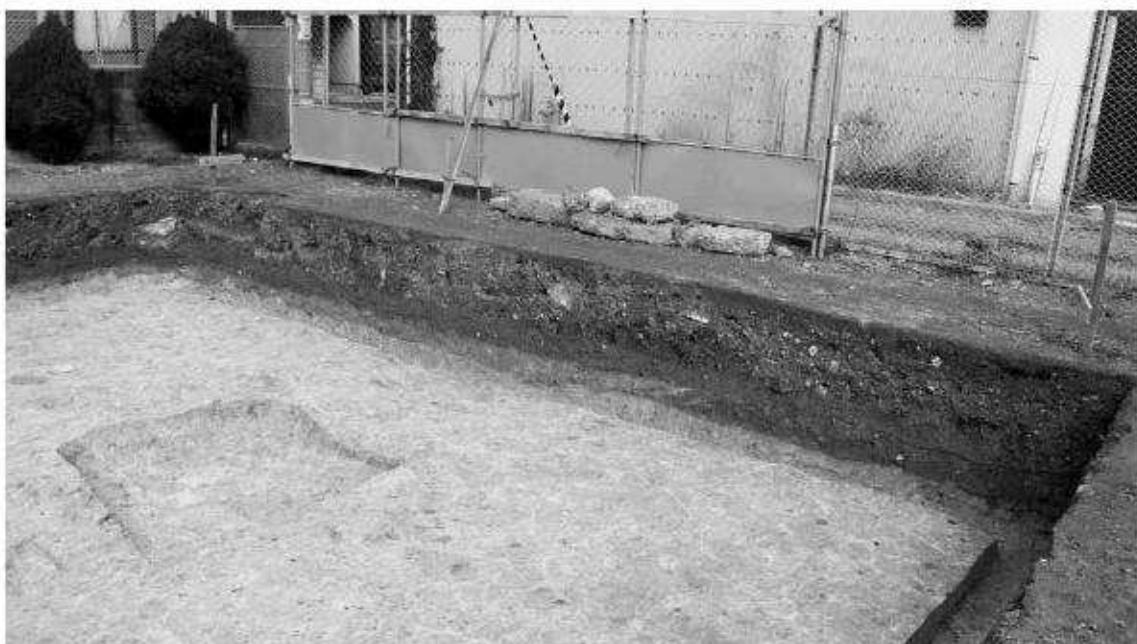


図 46 調査区北壁



図 47 北壁（東端）



図 48 北壁（西端）

## 安松田遺跡（17047）

- (1) 泉佐野市東羽倉崎町
- (2) 安松田遺跡物理探査
- (3) 三木 弘・井西貴子

### はじめに

泉佐野市東羽倉崎町に所在する安松田遺跡では、平成21年度（09区）の調査成果の考古学的分析から、遺跡内粘土を素材として瓦を製作していたこと、その瓦が東大寺の鎌倉期再建用として供給されたことが、ほぼ確かとなった。

そこで遺跡内での瓦生産の確証をさらに得るた

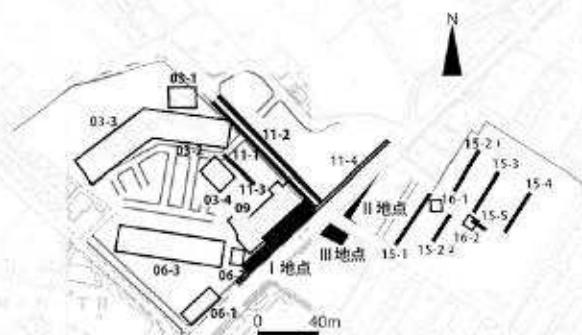


図49 既往調査区と29年度物理探査実施地点

め、平成27年度にトレンチ掘削とレーダ探査を行い、平成28年度には前年度の成果に基づき2ヶ所の拡張トレンチを設定した。しかし、掘立柱建物の一画を発見したものの瓦窯は検出されなかった。

平成27・28年度調査区が平成21年度調査区や、焼土や炭とともに未焼成品を含む瓦破片が多量に出土した平成23年度の11-4区（埋設管敷設に伴う立会調査）のNo.2土坑から約150m離れていることから、平成29年度はその間で窯跡を確認する目的で計画を進めた。ただ、当該範囲にはトレンチを設定できる空閑地がほとんどないため、掘削を伴わない遺構探査方法として地表面からの走査による磁気探査と地中レーダ探査を用いることとして、平成30年3月1・2日に実施した。なお本事業は平成29年度国庫補助事業の一部である。

### 磁気探査と地中レーダ探査

磁気探査とは地球磁場の空間的变化を測定する方法で、窯跡などの熱残留磁気を帯びた領域を局所的異常とすることで、地下の磁気体の分布を探る。

地中レーダ探査は地表を走査するアンテナから地中に放射された電磁パルス波の反射によって、地下浅部の地盤構造、空洞、埋設物などを解析する。

### 物理探査の成果

物理探査は平成21・23年度調査区に挟まれた住棟（4号棟）に沿った歩道・緑地帯部分（I地点）、

平成27・28年度調査区に近い公園内部分（II地点）及びII地点南東の空閑地（III地点）で行った。なおIII地点については周囲を電線で囲まれノイズ発生が予測されたため、磁気探査は行わなかった。

磁気探査の測線長は375m、地中レーダ探査は1095mに及び、当初の計画を満たす作業量を得た。その成果については下記の表にまとめる。

表4 物理探査の成果

地点	地中レーダ探査	磁気探査
I	落込み7ヶ所。6ヶ所は現地盤下0.8~1.0mで、粘土探掘坑の可能性あり。1ヶ所は深さ1.5mほどで底面が硬化しているようなので窯の可能性あり。長径4m・短径2.5m。	地下埋設物の影響のため遺構存否不明。
II	顕著な反応なし。	
III	落込み2ヶ所。ともに現地盤下0.8~1.0mで、粘土探掘坑の可能性あり。	実施せず。

### 安松田遺跡の瓦生産遺構の分布

地中レーダ探査で窯跡の可能性が指摘されたI地点の落込み反応（A）は、生産関連遺構とみられた平成21年度の174号土坑や平成23年度のNo.2土坑と極めて近接した位置にある。したがって、4号棟北を北西→南東に延びる団地内道路と市道上町末広線との交点から市道沿って南西に10~20m進んだ付近に瓦生産に関わる遺構が集約されていると推定する。

またそれ以外の8ヶ所の落込み反応は、21年度検出粘土探掘坑の68%が深度10~30cm台であった状況と一致するので、粘土探掘坑とみられる。

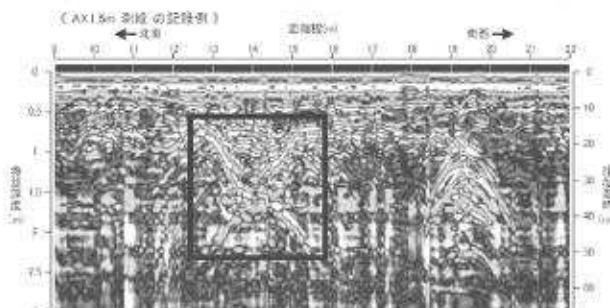


図50 I地点検出の窯跡状反応

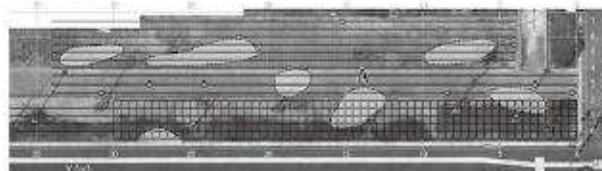


図51 I地点の物理探査測線と検出の落込み  
(A: 窯跡状反応)

## 1987 年度調査の亀井遺跡

### はじめに

八尾市北亀井町から南亀井町に所在する亀井遺跡は、弥生時代の豊富な遺構・遺物が検出される著名な遺跡である。これまで長吉ポンプ場や近畿自動車道建設、平野川改修等に伴い発掘調査が実施され、多大な成果を収めてきた。このたび未公表となっていた成果の整理を進めてきたのでその資料の一部を紹介し、これからの文化財活用事業に供したい。

亀井遺跡内を南東から北東に流れる平野川は、護岸やショートカット等の改修工事が施工されてきた。1987 年度は河床の切り下げ工事に伴う発掘調査を同年 7 月と翌 88 年 1 から 2 月の二期に分けて実施した。今回報告するのは、このうち上流側の「KMI (KM) - 87 - 2」と名付けた調査の成果である。

### 調査の方法

調査の対象は平野川の河床の中央を流れる幅 5 m の水路部である。水路の水流を維持したまま発掘調査を進めねばならないので、水路の中央に矢板を打設して二分割し、片方で水流を確保しながらもう片方で発掘調査を進める方式となった。従って調査は矢板を境にして幅 2.5 m、長さ 92m の規模の二つの調査区に分け、南・北調査区と名付けて発掘を実施した。

調査着手時、調査区にはゴミ・ヘドロが厚く堆積し、鉄筋コンクリート塊や廃タイヤ、廃自転車等の産業廃棄物も大量に混じるものであった。これらを除去した後、本格的な発掘調査となった。

### 基本層序

ゴミ・ヘドロ層を除去した面から地山面までは 0.2 ~ 0.6 m の厚さの暗褐色土層で、大量の弥生土器が含まれていた。当初プライマリーな弥生包含層と考えたが、この層からは現代のビニール片や針金片等が出土したので、近年に搅乱された土層と判明した。この搅乱土層を除去したところで地山面となり、弥生時代の遺構を検出した。

### 遺構

井戸・土坑を 7 基、大溝・溝を各 2 条、小ピット群を検出した。各遺構の名称や番号については発掘調査時に名付けたものをそのまま使用した。

井戸 2 : 間仕切り矢板を挟んで南・北半部にわたり検出した遺構で、径 1.5 ~ 1.7 m、地山面からの深さ 0.9 m を測る。完形の弥生土器五点が出土した。これらは使用痕跡が見当たらず、製作後短期間でこの遺構に埋められたものと考えられる。

**土坑 1 :** 北半部の西半で間仕切り矢板沿いに検出した遺構。大きさは 2.0 × 1.1 m、地山面から深さは 0.8 m。完形の弥生土器が三点出土した。出土状況から矢板による土器の破壊はなかったと思われる。

**土坑 2 :** 土坑 1 の北 0.5 m 離れて所在する。南半部だけの検出。径 2 m、深さ 0.6 m の底の中央に、さらに径 0.6 m、深さ 0.5 m の孔を穿ち、二段掘りの様相を呈する。

**井戸 3 :** 北半部の東半で検出した。2.3 × 1.5 m 以上、深さ 0.7 m で、二段掘り状を呈する。弥生土器がまとまって出土した。

**大溝 2 :** 幅 2.0 ~ 2.5 m、深さ 0.6 m の溝。断面において底面の一部に凹凸が観察されたので、この溝は人工的に掘削されたものと判断できる。鹿角はこの溝から出土した。

**井戸 :** 井戸 2 の南に接する。径 2 m、深さ 0.9 m を測る。この遺構から犬(?)の頭骨が出土した。

**土坑:** 井戸 2 の南に切られる遺構である。1.1 × 1.3 m、深さ 0.4 m を測り、弥生土器がまとまって出土した。

**小ピット群:** 調査区の西端部で 27 個ほどの小ピット群を検出した。近畿道建設に伴う調査の際に検出された小ピット群の続きであるが、地山面が近年に削平されて一部が残存したものである。

(辻本 武)



図 52 KMI - 87 - 2 調査区位置図

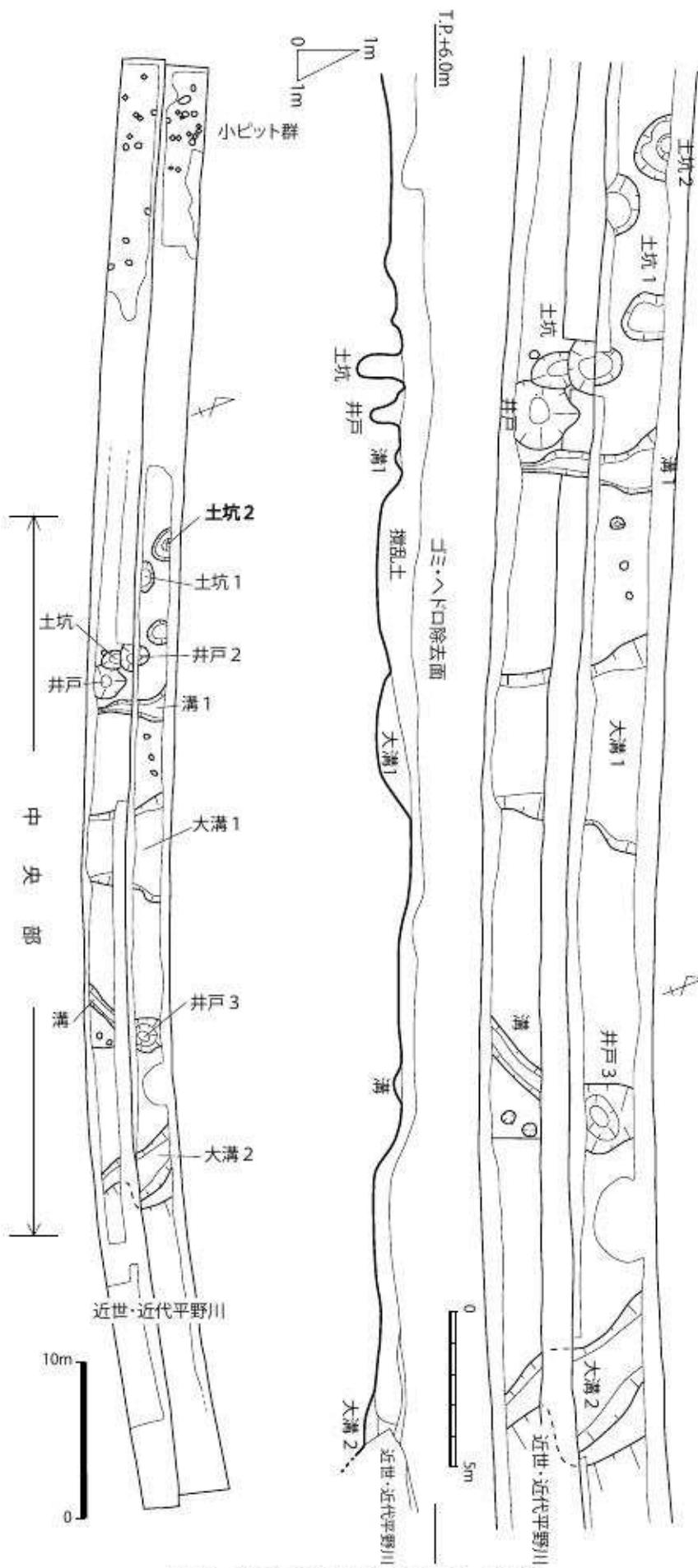


図 53 調査区全体図と中央部平面・断面図



図 54 ゴミ・ヘドロ除去作業



図 55 北半部全景（上流から）



図 56 南半部全景（下流から）

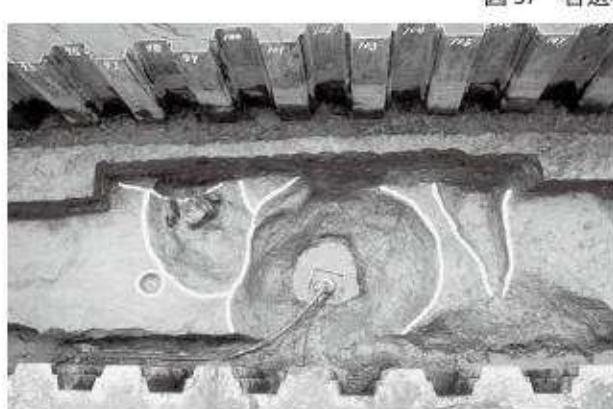
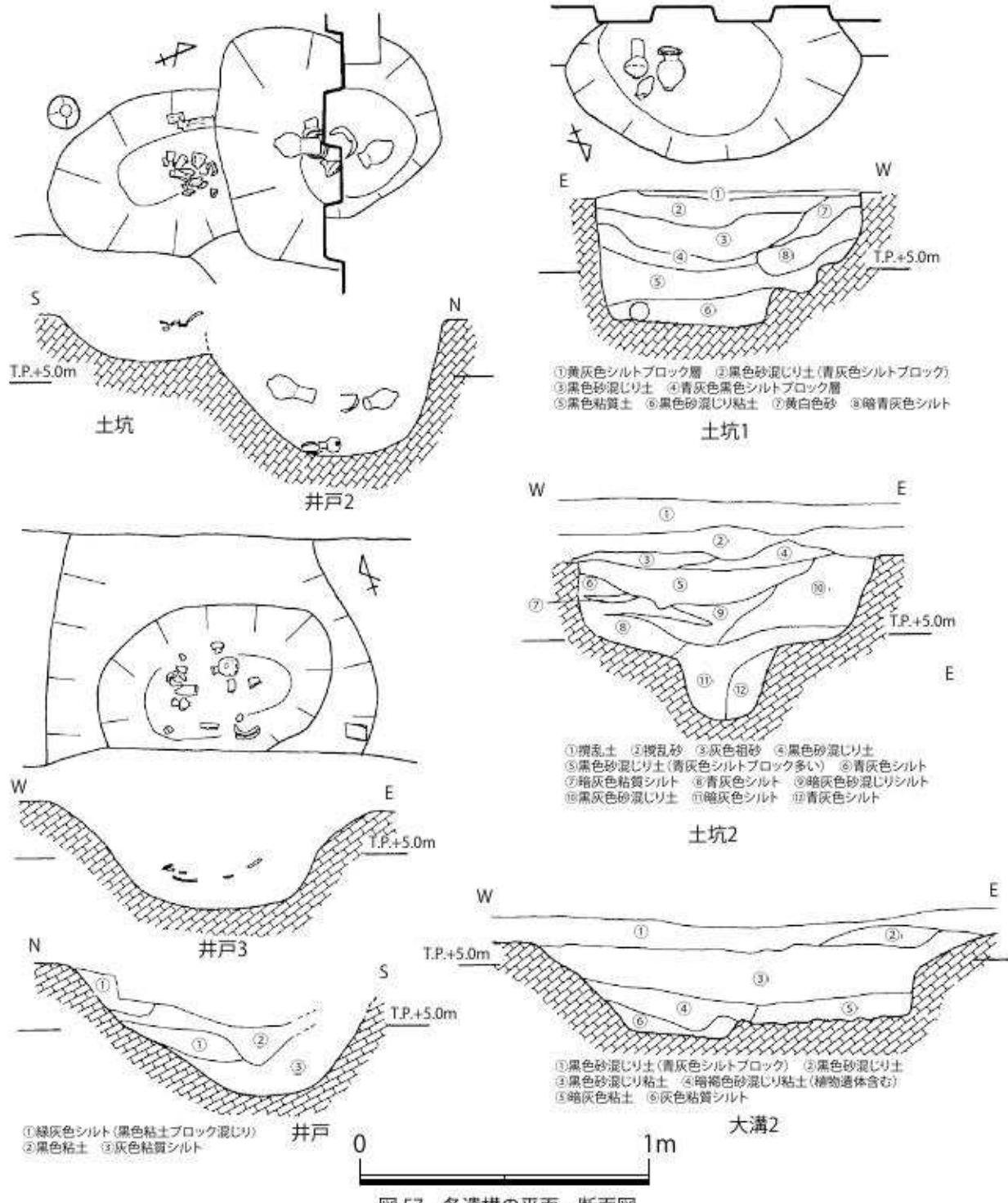


図 58 南半部土坑・井戸・溝1 (南から)

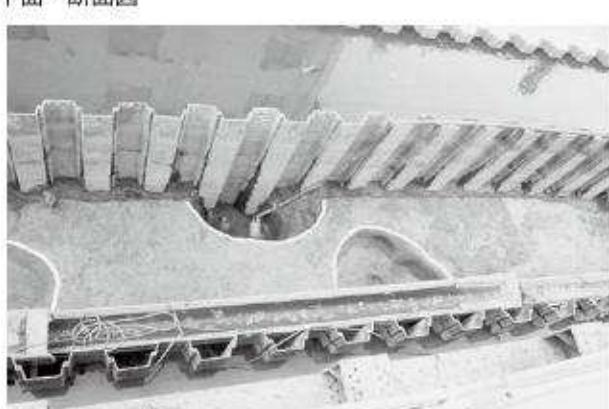


図 59 北半部土坑2・3 (北東から)

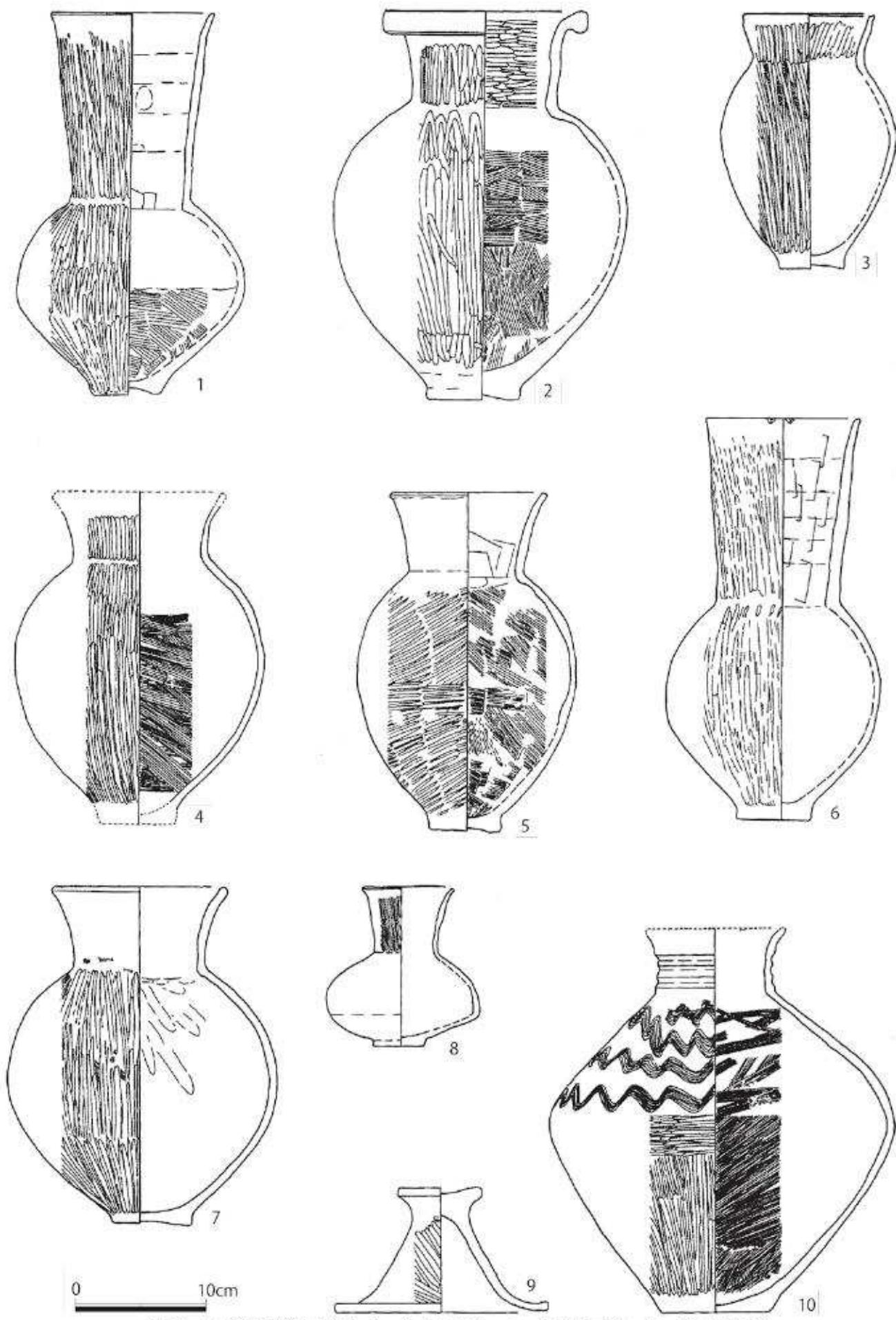


図 60 出土遺物実測図 (1) 1~3 (土坑1)・4~8 (井戸2)・9、10 (大溝2)

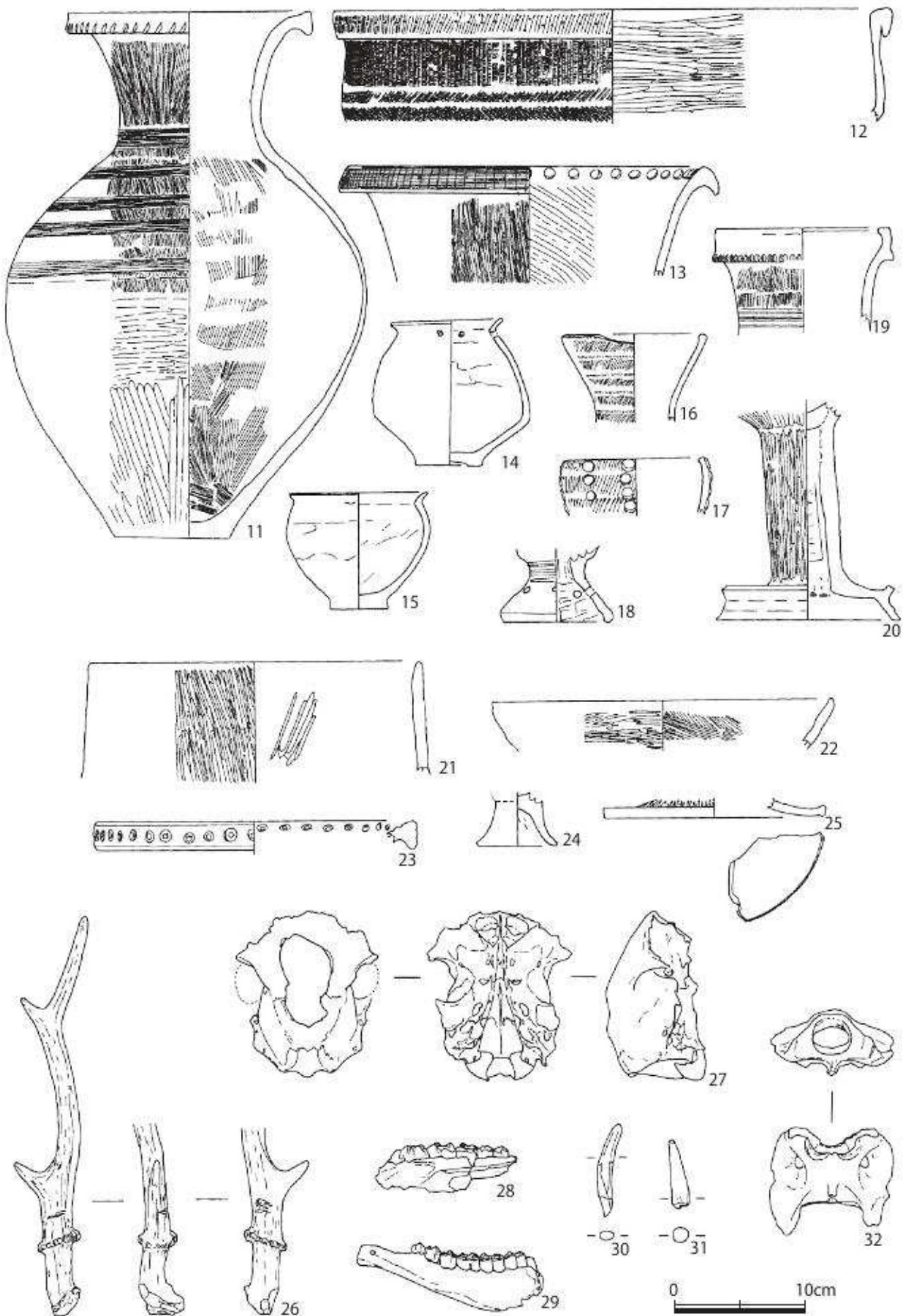


図 61 出土遺物実測図 (2) 11 (溝1)・12～20 (攪乱土)・21～25 (赤色顔料塗布)・26～32 (獣骨等)



図62 井戸2南半部（南東から）



図63 井戸2北半部（北から）



図64 土坑1（北西から）



図65 土坑1（北から）



図66 井戸3（北から）



図67 土坑2（南西から）



図68 獣骨と鹿角



図69 犬（？）頭骨

## 山畠 18 号墳の調査成果

### はじめに

大阪府と奈良県の境にある生駒山地西麓には、多くの群衆墳が発見されている。その中でも東大阪市上四条町に所在する山畠古墳群は、市内最大の群衆墳で、6世紀後半から7世紀にかけて築造された古墳が70基ほど確認されている。かつては100基以上で構成された古墳群であったと推定されている（図70）。

昭和26年に藤澤一夫氏（故人）と堅田直氏（故人）が大阪府教育委員会から委嘱を受け、その当時は瓢箪山古墳群と呼ばれていた当該古墳群の緊急調査を実施した。このとき調査が実施された古墳は、瓢箪山C4号墳（現在の山畠18号墳）、A6号墳（山畠7号墳）、D6号墳（山畠30号墳）の3基である。

これらの古墳の出土品は、堅田氏が保管していたが、平成27年に堅田氏が調査した他の遺跡の出土品と共に大阪府文化財調査事務所所蔵品となった。文化財調査事務所ではこの堅田調査資料を順次整理・公開していく予定である。

当年報では、瓢箪山C4号墳、現在では山畠18号墳と呼称されている古墳の資料を取り上げて紹介していく。山畠18号墳については、出土遺物のみ

ならず、一部の現地調査図面、写真も保管されていたので、それらの調査関係資料も合わせて紹介する。

### 1. 山畠 18 号墳の現地調査

昭和26年7月に実施された現地調査については、『大阪府の文化財』（昭和37年）に詳細が記述されている。ここに全文を引用する。

#### 大阪府の文化財の記述

「（C4号墳）A6号墳から北西方約九〇メートルのC稜線上に所在する。往時において天井石が除去せられ、封土の西側が深く抉られた状態であったので、封土の形態は明確ではないが、実測の結果からは、径約一〇・四メートルの方墳のごとくに推察される。横穴式石室は左片袖式の石室で、玄室の長さ四メートル、幅二メートル、羨道の長さ二・二メートル、幅一・五メートルで、床面には一〇～一五センチメートル程度の礫石を敷いている。この礫石敷を除去してみると、奥壁近くからはじまって、Y字形の排水溝が中軸線上に作られていた。羨道には、四枚に分けて作った凝灰岩製組合式石棺の底石が三枚だけ、原位置を保って遺存していた。残材から復元すると、石棺は全長二・〇四メートルのものとなる。玄室か

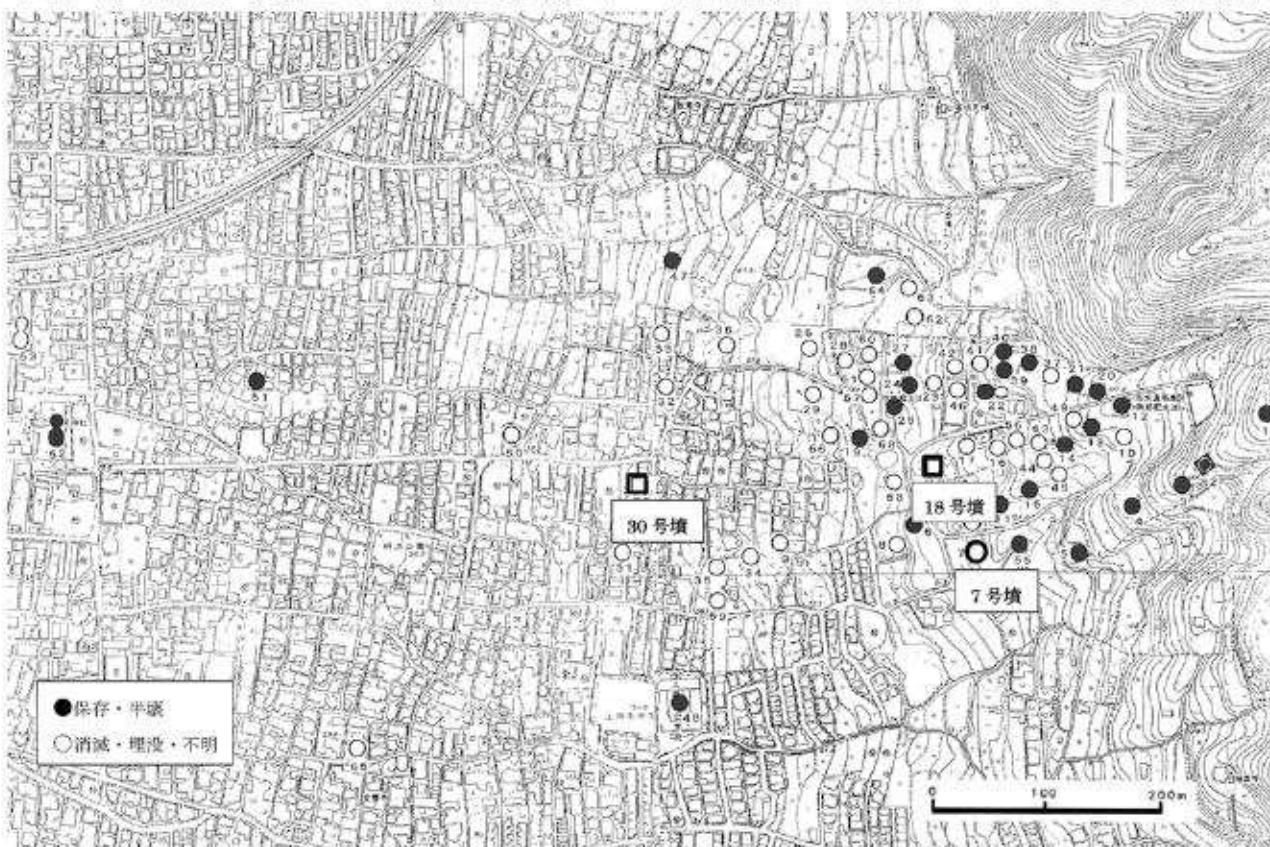


図70 山畠古墳群分布図（東大阪市の古墳 改訂版 東大阪市教育委員会 所収の分布図を一部改変）



図 71 山畠 18 号墳墳丘（西から）

らは鉄鎌、鉄釘などが検出せられて、木棺のおかれていったことが考えられた。検出遺物としては蓋杯、高杯等の須恵器、壺、高杯等の土師器、鉄刀子、鉄鎌、金環、銀環等があった。」

この調査記録によると、山畠 18 号墳の特徴は、次の 4 点があげられる。

- ・古墳の形状は 1 辺が 10.4 m の方墳。
- ・主体部は、左片袖の横穴式石室で玄室の長さ 4 m、幅 2 m で、西に開口する。
- ・石室床面の礫石敷を除去すると、中軸線上に Y 字形の排水溝がある。
- ・羨道には組合式石棺、玄室には木棺が存在したと考えられる。



図 72 山畠 18 号墳玄室（奥壁から）

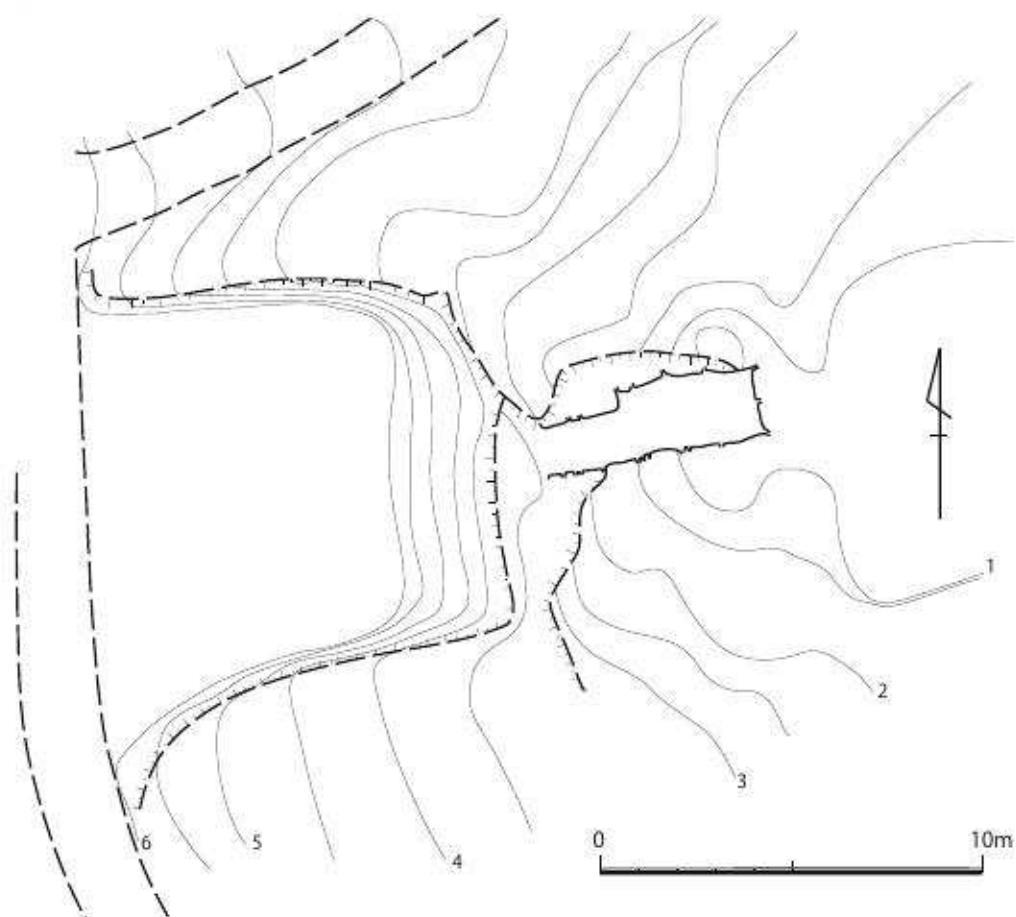


図 73 山畠 18 号墳墳丘測量図

## 2. 調査図面・写真について

文化財調査事務所には、瓢箪山古墳群昭和26年の現地調査の紙焼き写真が43点保管されている。保管の経緯については不明であるが、その中でC4号墳、すなわち今回紹介する山畠18号墳と思われる写真は、25点ある。そのうち図71、72、73の3点を紹介する。

図71は、西方向から墳丘を撮影した写真である。石室全面の封土は、大きく抉られているのがわかる。

図72は、左片袖式の石室を奥壁方向から羨道方向に撮影したもので、羨道の右寄りに組合式石棺の底石が残っているのがわかる。

文化財調査事務所には、青焼きの図面であるが、墳丘測量図（図73）が保管されている。写真と同様保管の経緯は不明であるが、西側の封土が抉られている状況がよくわかる。図面の縮尺は記載されていたが、等高線の高さは不明である。

平成27年度に文化財調査事務所所蔵品となった堅田調査資料には、C4号墳の石室実測図がコピーや青焼きではあるが、含まれていた。

図74は、石室平面図・立面図、図75は、3枚の石室平面図で上から掘り下げ順に配置した。石室床面には、10cm前後の礫敷石があったが、これを除去すると、Y字形の排水溝が設置されていたこと

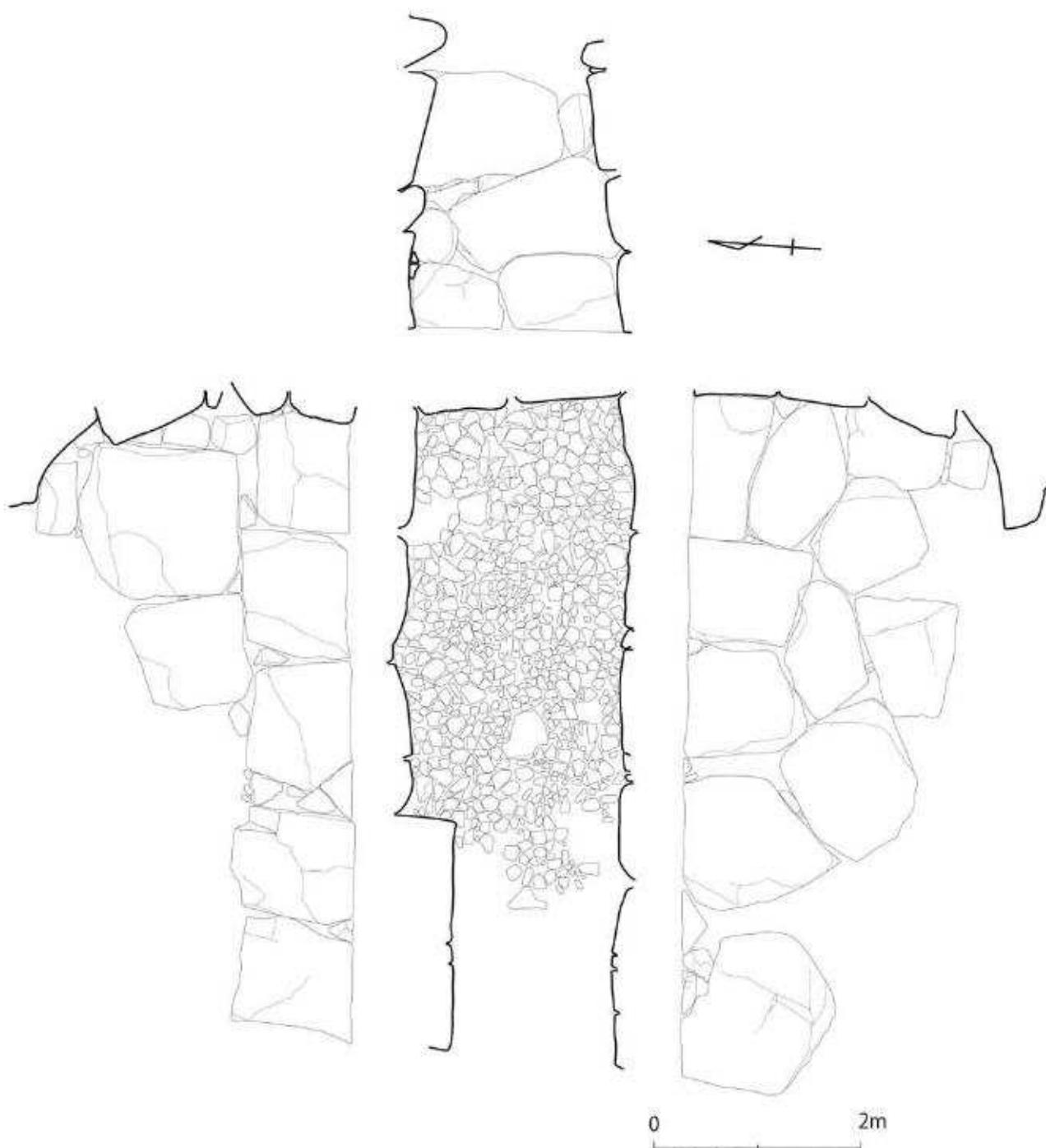


図74 山畠18号墳石室平面図・立面図

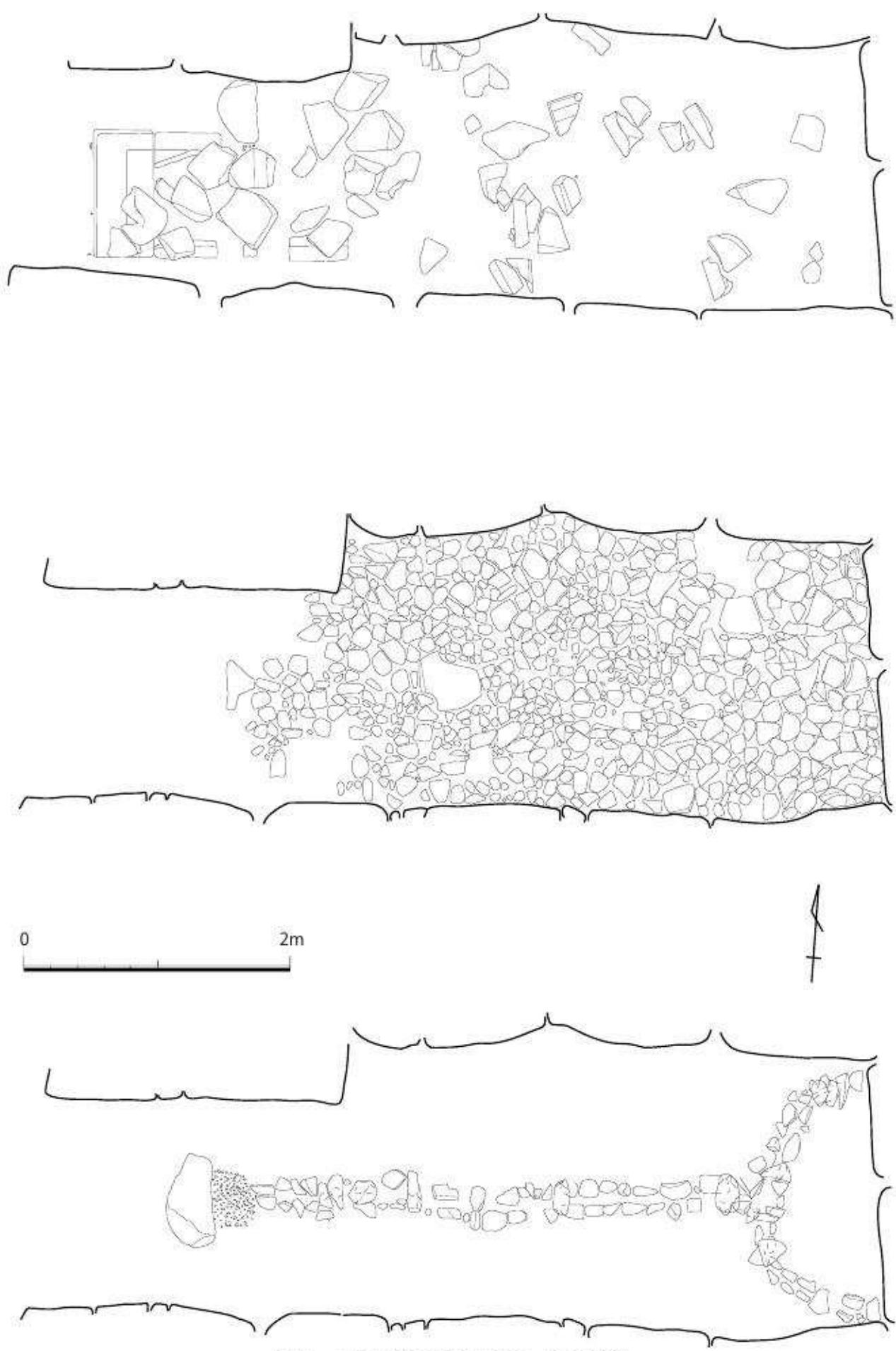


図 75 山畠 18 号墳石室平面図（上から掘削順）



図 76  
石室内奥壁付近  
遺物出土状況

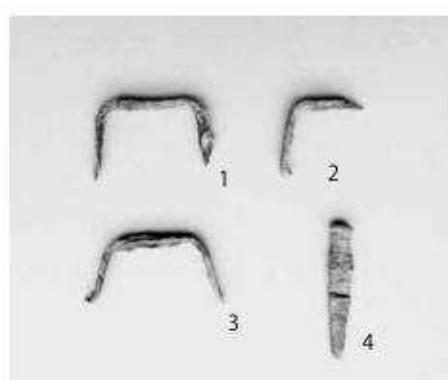


図 78 錆 3 点  
釘 1 点

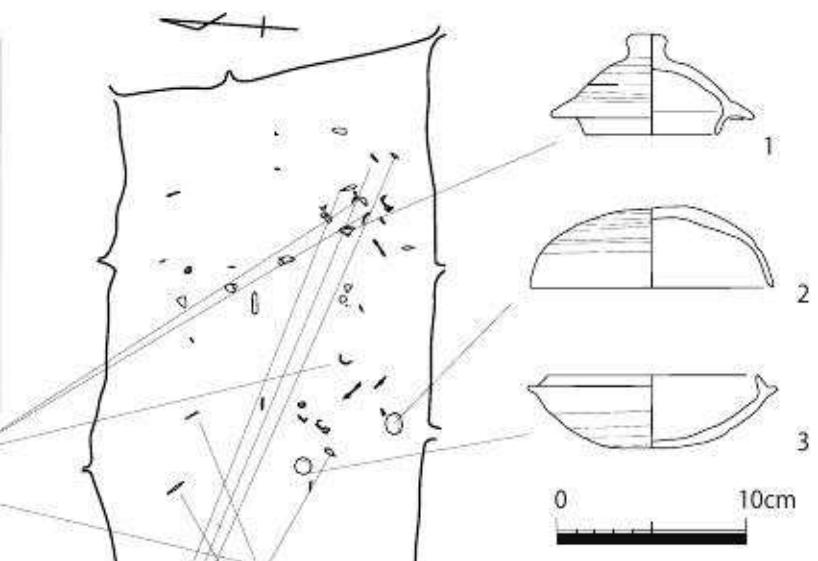


図 81 須恵器 3 点

図 77 石室内遺物出土状況実測図

図 80 刀子 2 点

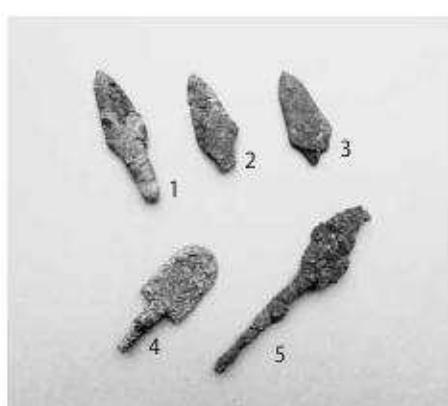


図 79 鉄鎌 5 点



がわかる。

### 3. 出土遺物

『大阪府の文化財』では、玄室から鉄鎌、鉄釘、鉄鎌、鉄刀子、金環、銀環、須恵器、土師器等が出土した、と記述があるが、堅田調査資料に保管されていたC4号墳出土資料は、鉄製品、須恵器、土師器小片で、金環、銀環の所在は不明である。

鉄製品は、保存状態が悪く、錆による腐食が激しい。

その中で比較的原形をとどめているものを選び写真で紹介する。

図78は鉄製鎌3点、鉄製釘1点、保存状態の良い資料を撮影した。鉄鎌は、いづれも幅0.9~1cm、厚み0.3~0.5cmの薄い鉄板の両端を折り曲げ、コの字型に成形したものである。

図78-1は、渡り部長5cm、爪部長4.5cmを測り、爪部の屈曲角度はほぼ直角に折り曲げられている。

図78-2は、渡り部の一部と爪1本は欠損している。残存している爪は、13度の屈曲角度で外側に開き、先端部は内側に折り曲げられている。爪部の中ほどにわずかに木質が付着している。

図78-3は、渡り部長5cm、爪部長4cmを測り、爪部は2本とも30度の屈曲角度で外側に開き、先端部も外側に曲げられている。

図78-4は鉄釘、断面板状で、最大幅1.2cm、長さ7.5cmを測る。頂部は両端を中央に寄せ、片側に折り返している。木質が付着している。

図79は鉄鎌、鎌身の形が判明しているものを中心に撮影した。図79-1~3は三角形鎌、鎌身の長さ5.5~6cm、幅2.5~2.6cmを測る。1は茎部が一部残存している。図79-4は、鎌身の長さ4.3cm、幅2.9cmをはかり、鎌身の先端が丸く、頸部と茎部の関部が残存している。図79-5は柳葉鎌か、一部欠損のため、形状は不明。

図80は刀子2点である。図80-1は両関式の刀子で、刀身の長さ7.1cm、柄の長さ5.2cm、関部の巾1.8cm、峰の厚み0.4cmを測る。

図80-2は、片関式の刀子で、刀身の先端は欠損している。刀身の残存長は5.7cm、柄の長さは2.1cm、峰の厚みは0.4cmを測る。図80-1、2ともに柄には木質が付着しており、木製の柄が装填されていたと推定される。

堅田調査資料のC4号墳出土須恵器は3点で、いづれもほぼ完形、図81はその須恵器実測図である。

図81-1は蓋、口径7.0cm、器高5.3cmを測る。天井部に直径2.1cm、高さ1.3cmのつまみがあり、口縁部内面に1cmのかえりがあることから、壺蓋と

思われる。

図81-2は杯蓋、口径12.7cm、器高4.3cmを測る。天井部と口縁部を区切る稜は甘い。図81-3は、杯身、口径11.3cm、器高3.9cmを測る。蓋杯はとともにII型式5段階、6世紀末に比定される。

### 4. 遺物の出土状況

これらの遺物の出土状況については、堅田調査資料に含まれていた図77玄室内遺物出土状況実測図と調査事務所に保管されていた図76の遺物出土状況写真により出土状況をうかがうことができる。

図77出土状況実測図をみると、鎌は写真図78で紹介した3点の他にもう1点、合計4点描かれている。これらの鎌は、玄室の中軸線より南側に偏って出土している。鎌や釘の出土場所から、木棺は玄室の南側に寄せて安置されていたと考えられる。しかし出土した鎌は、渡り部長が5cm前後で、一般的に木棺に使用されているサイズに比較すると小さい。

鉄鎌は、図79で紹介した5点のほかに、長茎鎌等が出土状況図に描かれている。これらの鉄鎌も鎌と同様、玄室の南側に多く出土している。

刀子2点は、玄室北側、実測図で紹介した須恵器3点は、玄室南側で出土している。

### おわりに

60年以上前の調査で、保管されていた調査図面や写真には、不明なままの箇所もあるが、山畠18号墳の詳細は明らかにできたと思われる。今後はA6号墳(山畠7号墳)、D6号墳(山畠30号墳)についても稿を改めて紹介していきたい。

(藤田道子)

### 参考文献

- ・『大阪府の文化財』昭和37年 大阪府教育委員会
- ・『原始・古代の枚岡』第1部 各節 昭和41年3月 藤井直正・都出比呂志 河内歴史研究グループ
- ・『原始・古代の枚岡』第2部 総節 昭和42年3月 藤井直正・都出比呂志 河内歴史研究グループ
- ・『東大阪市の古墳』平成13年3月 東大阪市教育委員会
- ・『古墳時代木棺の展開過程における鎌の基礎的研究』2015年3月 岡林孝作(奈良県立橿原考古学研究所)

## 日下遺跡出土馬骨の放射性炭素年代測定

### 1. 調査概要と馬骨の出土状況

日下遺跡は、大阪府東大阪市の生駒山西麓沿いに広がる扇状地上に立地する、縄文時代および古墳時代を中心とした遺跡である。

昭和7年に山内清男が採集した縄文土器の中に東北地方の亀ヶ岡式土器が含まれていたことから、当遺跡は学史上知られることになった。昭和14年の梅原末治、小林行雄、藤岡謙二郎らによる調査では、縄文時代に属すると考えられる5体の屈葬人骨が発見された。ただし、貝塚の単純層は見つからず、縄文土器と土師器が混在する状況であった。

堅田直による昭和35年から41年の3次にわたる調査においても、計6体の人骨埋葬が発掘されたが、昭和14年の調査と同様、縄文土器と土師器、須恵器が混在する状況であり、縄文時代の原堆積層は認められなかった。また、出土遺物の中では5世紀後半を下る遺物が全くないことから、遺構の時期の下限は5世紀後半を「たとえくだるとしてもあまり遠くない時期」との見解を示された。

本稿で報告する馬骨は、昭和41年の第3次調査において、東トレーニチのほぼ中央で、後肢の一部を除いてほとんど完全な状態で発見されている。

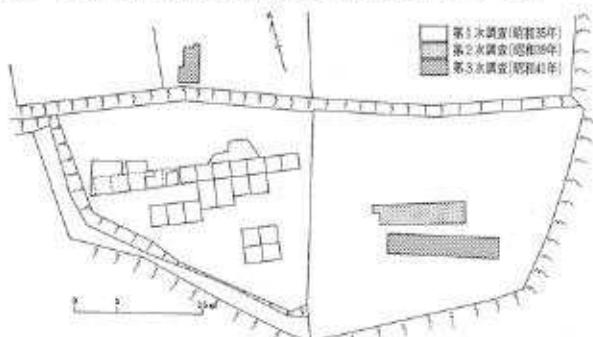


図82 調査区位置図

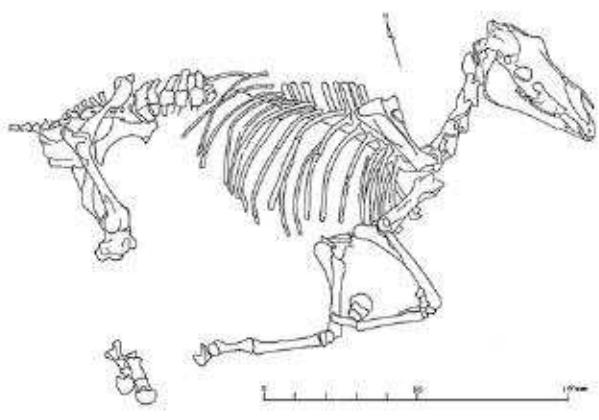


図83 馬出土状況

### 2. 馬骨の考古学的推定年代と課題

馬骨の年代は、調査概要によれば、5世紀後半と推定されている。それは、馬骨が厚さ約1mからなる包含層（貝、縄文土器、土師器、須恵器、韓式土器、製塩土器、石器などが混在）に掘り込まれた楕円形土壙から見つかっているが、上記の包含層中の遺物の時期の下限が5世紀後半であることと、土壙の築かれた時期が包含層形成後ではなく、形成途中であることから馬骨の年代を5世紀後半と限定された。

当時の林田重幸の鑑定によれば、馬は大きな犬歯を有することから12歳前後のオスで、四肢長骨の長さから体高は約125～130cmで蒙古系（蒙古馬より四肢骨が細い）の中型馬に属するとされた。

当時、古墳時代の馬の全身骨格がほぼ完全な形で発掘された例は他になく、日本における最初で唯一のものであり、極めて重要な資料であるとともに、日本における馬の導入や生産、飼育に関する問題を投げかけるものであった。

### 3. 馬骨分析にいたる経緯

故堅田直氏調査による日下遺跡出土資料については、馬骨を含め平成27年度に本府所蔵となった。その経緯については、当事務所年報19に記したところである。その後細々とではあるが再整理作業を進めており、資料の詳細が次第に明らかになりつつある。昨年度刊行の年報21では、韓式系土器について整理経過を報告している。

今回、馬骨について報告する契機となったのは、平成28年度に古代の馬に関する研究者グループによる資料調査依頼を受けたことである。同位体分析等による化学的な手法を用いて馬の生育環境や产地などを分析する重要性に触れ、とくに放射性炭素年代測定については現在の考古学的成果とクロスチェックすることができれば、当該資料の重要性をより正確に位置づけることができるのではないかと考えられた。

分析結果については、分析者である覚張隆史氏（金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター）から本府と情報共有させていただくとともに、その成果について、以下に寄稿をお願いした。

### 4. 馬骨の年代測定

本分析は日下遺跡出土馬の生存年代を評価するために、骨コラーゲンの放射性炭素濃度に基づく年

代学的評価を試みた。まず、日下貝塚出土馬の全身骨格の内、肩甲骨から約0.2 gの骨片を歯科技工士用ドリルを用いて採取した。分析番号はKSK01とした。採取した試料は金沢大学VBL分子生物学実験室に持ち込み、骨コラーゲン抽出を実施した(Yoneda et al. 2002, Gakuhari et al. 2015)。

金沢大学の実験室において、採取した骨の表面からドリルピットで土壤を丁寧に除去した。超純水中で超音波洗浄し、表面の微細な汚染を除去した。有機系化合物を用いた保存処理が行なわれている可能性があるため、アセトンに一晩反応させてからその影響を低減させた。次に、土壤有機物の混入を除去するために、洗浄した試料は0.2M NaOHに浸し、4°C下で12時間反応させた。中性化した後に乾燥試料を粉末化した。粉碎試料はセルロースチューブ内で1.2N HCl 4°C下で12時間に反応させ、4°C下で12時間の脱灰反応をした。中性化処理後に、HCl溶液(pH3.0)を加えて12時間90°C反応させてゼラチン化し、ガラスフィルター(Whatman GF/F)でろ過した。ガラスフィルターでろ過したゼラチン化溶液は、限外ろ過器である Viva Spin (30kDa, MERCK)を用いて精製した後に、精製溶液を凍結乾燥させた。精製された骨コラーゲン0.5 mgは、元素分析計(Flash2100, Thermo Fisher Scientific)で炭素原子含有率(%)、窒素原子含有率(%)、炭素・窒素比(モル比)を測定した(表5)。

また、得られた精製コラーゲンからグラファイトを作成した後に、パレオ・ラボのコンパクトAMSにて放射性炭素濃度を測定した。その結果、放射性炭素年代値は、 $1616 \pm 23$  BPであった(表6)。次に、暦年較正プログラムOxcalを用いて(Ramsay 2009, Reimer et al. 2013)、放射性炭素濃度から算出した放射性炭素年代値( $^{14}\text{C}$  Age)から、骨コラーゲン合成時における暦年代(較正年代値)を算出した。その結果、2標準偏差(2 $\sigma$ 暦年代範囲)は390-475 calAD(58.9%)、485-535 calAD(36.5%)を示した(表6、図84)。

## 5. 測定結果による考察

骨コラーゲンからの放射性炭素年代に基づく年代

表5 馬の骨コラーゲンの保存状態

前処理試料番号	部位	コラーゲン抽出率(%)	炭素含有量(%)	窒素含有量(%)	C/N比
KSK01	肩甲骨	1.6	43.0	14.9	3.4

表6 馬の骨コラーゲンの放射性炭素年代測定結果

前処理試料番号	測定番号	部位	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$^{14}\text{C}$ 年代(yrBP $\pm 1\sigma$ )	14C年代を暦年代に較正した年代範囲	
					1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
KSK01	PLD-33804	肩甲骨	-19.28 $\pm$ 0.19	$1616 \pm 23$	398-430 cal AD 40.0%) 492-530 cal AD 28.2%)	390-475 cal AD (58.9%) 485-535 cal AD (36.5%)

評価は、骨コラーゲンの保存状態に依存して年代結果にばらつきが生じるため、生体時における骨コラーゲン分子の特徴を保持していることを事前に確認しておくことが重要となる。特に、骨コラーゲンの炭素含有率が36%以上、窒素含有率が5%以上、炭素・窒素比が2.9-3.6の範囲を示す場合、放射性炭素年代値の測定値において相対的にばらつきが少なくなることはわかっている(Deniro et al. 1985)。本分析では、これらの基準をすべて満たすことから、生体時の骨コラーゲン分子の特徴を保持していることが分かる。また、骨コラーゲンの保存状態の別の指標として、骨の乾燥重量と、抽出・精製された骨コラーゲンの乾燥重量の比率(コラーゲン含有率)が1%以上であることが、放射性炭素年代値にばらつきが少くなる要因になる(van Klinken, 1999)。本分析ではこのコラーゲン含有率は4.5%を示したことから、放射性炭素年代測定の基準を満たした試料として評価され得る。

骨コラーゲンの保存状況が良いことから、本分析で得られた放射性炭素年代値は土壤有機物や二次的に結晶成長した鉱物からの炭素原子の汚染程度は低いと考えられ、暦年代の較正に使用可能と考えられる。このため、暦年代値が4世紀末～6世紀中葉の範囲を示している結果は、日下遺跡出土馬の生存していた実際の時期を反映していると考えられる。したがって、日下馬が古墳時代に埋葬された馬である可能性は高いと考えられる。

## 6.まとめ

日下遺跡出土馬骨の考古学的推定年代は、周辺で出土している韓式系土器や製塙土器などが現在の研究水準からみても古墳時代の5世紀後半ごろと推定されることから、調査概要で示された年代観に修正を要しないことがわかつた。

そして、今回の覚張隆史氏による骨コラーゲンの放射性炭素濃度に基づく年代測定結果は、当該資料の暦年代値が4世紀末～6世紀中葉(390年～535年)を示しており、考古学的推定年代とも矛盾しない結果となった。

これらの検討から、日下遺跡出土馬骨は古墳時代

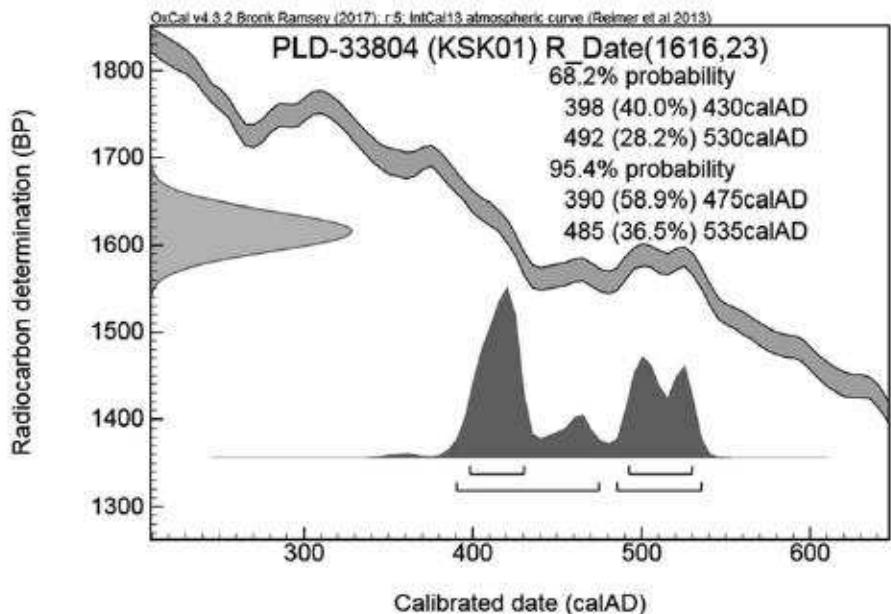


図84 肩甲骨 KSK01 の骨コラーゲンの較正年代

に属することが明らかとなった意義は非常に大きく、府下では四條畷市部屋北遺跡の全身骨格出土例（5世紀、オス、5～6歳、体高約127cm）とともに、今後古墳時代出土の馬全身骨格の重要で貴重な一例として改めて位置づけられよう。

また、両遺跡はともに生駒山西麓の河内湖東岸に位置しており、当地周辺は文献に現れる河内馬飼が活動していた場所と考えられることから、当時の王権の支配のもとにおける馬の飼育や牧の形成、馬飼い集団の動向などに関する問題を検討する上でも貴重な資料である。

丸山真史氏（東海大学海洋学部）によれば、日下馬は頭蓋骨及び下顎骨に犬歯がみられるところからオスであり、切歯の咬耗状態、上顎第3後臼歯の歯冠高から生後10～12年までの壮齡馬、左の橈骨や大腿骨から体高120～130cmの日本在来の中型馬に相当することである。従来の林田による評価と齟齬はなく、詳細の報告は別稿が準備される予定である。

今後は、覚張、丸山の両氏による歯のエナメル質に含まれる炭素やストロンチウムの同位体分析をおした日下馬の生育環境の復元の検討にも注目したい。その分析結果が出れば、河内湖周辺における馬の飼育や管理に関する問題についてより踏み込んだ検討が可能になるものと思われる。

文責 4・5 覚張隆史（金沢大学）

1～3・6 小浜 成

#### <参考文献>

帝塚山大学考古学研究室 1967『東大阪市日下遺跡調査概要』

林田重幸 1974「日本在来馬の源流」『馬』日本古代文化の探究 森浩一編 社会思想社

大阪府教育委員会 2010『部屋北遺跡』I 大阪府埋蔵文化財調査報告書 2009－3

Deniro M. J. (1985) Postmortem preservation and alteration of in vivo bone collagen isotope ratios in relation to palaeodietary reconstruction. Nature. 317. pp. 806-809.

Gakuhari T., Komiya H., Sawada J., Anezaki T., Sato T., Kobayashi K., Ito S., Kobayashi K., Matsuzaki H., Yoshida K., Yoneda M. (2015) Radiocarbon dating of a human remains and dog burials from the Kamikuroiwa rockshelter. Anthropological Science. 123. pp. 87-94.

Ramsey B.C. (2009) Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon. 51. pp. 337-360.

Reimer P.J., Bard E., Bayliss A., Beck J.W., Blackwell P.G., Bronk Ramsey C., Grootes P.M., Guilderson T.P., Haflidason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton T.J., Hoffmann D.L., Hogg A.G., Hughen K.A., Kaiser K.F., Kromer B., Manning S.W., Niu M., Reimer R.W., Richards D.A., Scott E.M., Southon J.R., Staff R.A., Turney C.S.M., and van der Plicht J. (2013) IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves

0–50000 years cal BP. Radiocarbon. 55. pp. 1869–1887.

van Klinken, G.J. (1999). Bone collagen quality indicators for palaeodietary and radiocarbon measurements. Journal of Archaeological Science 26. pp. 687–695.

Yoneda M., Tanaka A., Shibata Y., Morita M., Uzawa K., Hirota M., and Uchida M. (2002) Radiocarbon marine reservoir effect in human remains from the Kitakogane site, Hokkaido, Japan. Journal of Archaeological Science. 29. pp. 529–536.

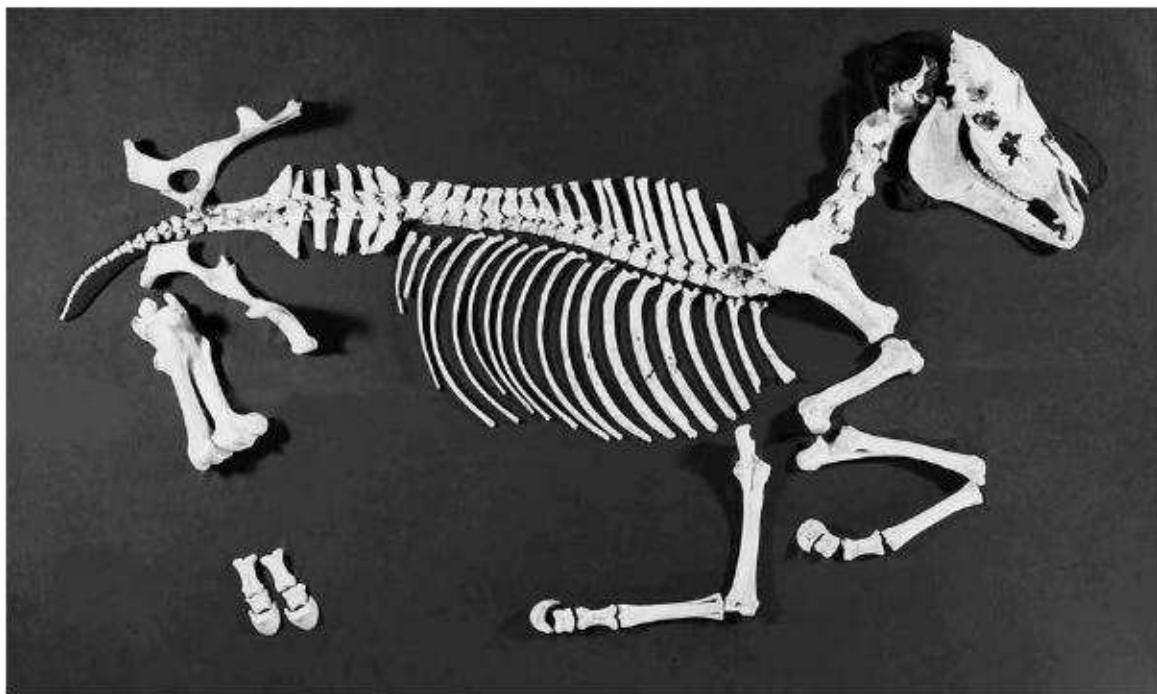


図 85 日下遺跡出土馬の全身骨格



図 86 平成 29 年度弥生文化博物館冬季企画展での公開

### ■研修事業

中学生の職場体験学習は堺市南区内の1校、3名を受け入れた。出土遺物の整理作業（水洗、拓本）など、調査事務所で行っている各種業務を体験した。

特に、出土品の展示作業実習として、藤井寺市の国府遺跡と富田林市の錦織南遺跡から出土した、縄文土器と石器をホールの展示ケースに展示した。

また、高校生（2名）のインターンシップについても、講義と業務体験を通じて文化財保護の意義と調査事務所の役割について知る機会を設けた。

さらに、大学生（2名）のインターンシップは、2週間にわたり実施した。このため調査事務所内の実習と講義の他に、発掘調査現場での作業体験と和泉池上文化財収蔵庫での資料整理及び府立博物館の受付体験も行い、文化財保護への理解を深めた。

国際協力機構（JICA）の海外研修生2名（トルコ1名、ヨルダン1名）に対して「考古資料の発掘と保存管理」について、埋蔵文化財の発掘調査と保存管理を中心に、現状説明と現場作業の体験を行った。

### ■発掘調査等の現地公開

府道新設に伴って和泉市府中遺跡を調査し、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡が発見された。出土遺物としては、弥生時代中期から古墳時代の土器などが見つかっている。

また府道新設に伴って富田林市宮町遺跡の調査を行った。この調査では、古墳時代後期の古墳と古墳時代後期の掘立柱建物などが発見されている。

これらの遺跡では、それぞれ現地公開を開催し、200名と70名の見学者が参加した。

### ■文化財収蔵庫の特別公開

府立弥生文化博物館に隣接する、和泉池上文化財収蔵庫の特別公開を年間4回開催し、収蔵している府内各遺跡から出土した古墳時代の準構造船の部材及び、旧石器、縄文土器、弥生土器、須恵器、瓦等の見学と、須恵器等に直接触れる展示を行った。

4回の公開で、422名の参加があった。今後も、和泉池上収蔵庫の特別公開を継続する予定である。

### ■出かける博物館事業（展示・関連講演等）

府立狭山池博物館と河内長野市立ふるさと歴史学習館にて、府教育庁と大阪狭山市教育委員会及び河内長野市教育委員会・府立狭山池博物館の共催で、「陶邑の須恵器生産とその流通」展を開催した。この展示会では、平成6年度に府立大型児童館の建設に伴って実施した、堺市高藏寺第13号窯跡の発掘調査成果を展示了。



図87 中学生の職場体験



図88 高校生のインターンシップ



図89 府中遺跡現地公開



図90 和泉池上文化財収蔵庫の特別公開

また（公財）大阪府文化財センターと共に、府立狭山池博物館にて「南河内の縄文遺跡を探る」展を開催し、藤井寺市国府遺跡と富田林市錦織南遺跡の発掘調査で出土した、縄文時代前期から晩期の土器と石器を展示した。それぞれの展示会に伴う講演会も開催した。さらに府立弥生文化博物館の弥生プラザコーナーの展示として、3回の展示を行った。

1回目として「発見された縄文のムラ」、2回目は「南河内の高地性集落」、3回目には「方形周溝墓に供えた土器」の各テーマで展示を実施した。

さらに、府立弥生文化博物館の冬季企画展として、府教育庁文化財保護課が平成30年度に開設50周年を迎えることを記念して、「かけがえのない文化財を守る、伝える－大阪における歩みと展望－」展が1月20日から3月31日まで開催された。

また茨木市立文化財資料館にて、「西福井遺跡の縄文時代」展を開催し、関連の講演会も実施した。加えてドーンセンター4階の展示コーナーに「大坂城三の丸跡発見の大工道具」のテーマで、大坂城三の丸跡から出土した16世紀末の遺物を展示した。

#### ■出かける博物館事業（講演、イベント応援等）

各種の機関・団体等から依頼を受けて、年間20回の講演会とイベント等に職員を派遣している。

府教育庁文化財保護課では、職員の研究や実績に基づいた講師依頼に対しては、できるだけ対応するよう努めている。

#### ■出前授業と出張展示（府市連携事業）

府教育庁と富田林市教育委員会及び大阪狭山市教育委員会の間で、それぞれ文化財普及・活用の連携事業を2回実施した。

大阪狭山市立東小学校と、富田林市立金剛公民館での出前授業を開催した。特に大阪狭山市立東小学校では、6年生4クラス（150名）を対象に、発掘調査成果を活用した授業を行った。

#### ■ホームページでの調査成果公開

発掘調査については、4遺跡の調査成果を公開した。主に、現地公開を実施することができなかった遺跡を中心に紹介を行った。

また以前の発掘調査によって出土した遺物のうち、再検討が必要なものについては、改めて整理を進めている。この再整理事業として、「四條畷市雁屋遺跡出土の銅鏡」と「東大阪市日下遺跡から出土した馬骨」の2遺跡の資料を紹介した。

#### ■文化財調査事務所への学校等からの施設見学

近隣の保育園から園児123名の施設見学が行なわれた。また、堺市立小学校2校の3年生が70名と、堺市立中学校2校の2年生13名の見学があった。

（渡邊昌宏）



図91 文化財調査事務所の見学会



図92 「南河内の縄文遺跡を探る展」関連講演会



図93 府立弥生文化博物館冬季企画展「かけがえのない文化財を守る、伝える－大阪における歩みと展望－」



図94 小学6年生の出前授業

表7 平成29年度 文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業一覧（1）

事業	事業名	実施年月日	実施場所	内 容	対 象	備 考
研修	インターンシップ（高校生）	平成29年7月26日～7月28日	調査事務所	文化財調査事務所の業務実習	府立高高校希望者	府事業
	インターンシップ（大学生）	平成29年7月31日～8月10日	調査事務所ほか	文化財調査事務所の業務実習	関西大学希望者	府事業
	国際協力機構（JICA）研修	平成29年11月27日～12月1日	調査事務所ほか	「考古資料の発掘と保存管理」	JICA研修生（トルコ・ヨルダン計2名）	
	職場体験学習（中学生）	平成30年2月8日・9日	調査事務所	文化財調査事務所の業務体験	堺市立福泉南中学校 体験希望者	
現地調査の開催	府中遺跡現地公開	平成29年6月3日	和泉市府中遺跡現地	府道建設に伴う調査内容の公開	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開
	宮町遺跡現地公開	平成30年1月6日	富田林市宮町遺跡現地	府道建設に伴う調査内容の公開	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開
出かける博物館事業展示会等	弥生フラワ展示「発見された縄文のムラー河内長野市境原遺跡」	平成29年2月1日～7月30日	府立弥生文化博物館	河内長野市境原遺跡出土の縄文土器と石器を展示	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開
	「大阪城三の丸跡発見の大工道具」	平成29年4月1日～平成30年3月31日	大阪府立ドーンセンター4階展示コーナー	大阪城出土の大工道具を展示	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開
	府立狭山池博物館展示「陶邑の須恵器生産とその流通」展	平成29年5月16日～6月18日	府立狭山池博物館	堺市高藏寺第13号窯跡出土の須恵器を展示	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開 朝日夕刊(5/15) 読売朝刊(5/30)
	河内長野市立ふるさと歴史学習館展示「陶邑の須恵器生産とその流通」展	平成29年6月21日～7月17日	河内長野市立ふるさと歴史学習館	堺市高藏寺第13号窯跡出土の須恵器を展示	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開
	弥生フラワ展示「南河内の高地性集落－河内東山遺跡－」	平成29年8月4日～平成30年2月25日	府立弥生文化博物館	河内東山遺跡出土の弥生時代後期の土器を展示	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開
	「西福井遺跡の縄文時代」展	平成29年11月1日～12月18日	茨木市立文化財資料館	西福井遺跡出土の縄文土器を展示	一般	茨木市ホームページ等でも公開
	和泉池上文化財収蔵庫特別公開	平成29年11月18日・19日	和泉池上文化財収蔵庫	「関西文化の日」に合わせて、府内の各遺跡から出土した船関係資料と陶棺及び土器・瓦類を公開展示	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開
	「南河内の縄文遺跡を探る」展	平成29年12月6日～平成30年1月21日	府立狭山池博物館	(公財)大阪府文化財センターと府立狭山池博物館との共催で、「国府遺跡」と「錦織南遺跡」及び「三宅西遺跡」出土の縄文土器と石器を展示	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開
	冬季企画展「かけがえのない文化財を守る、伝える－大阪における歩みと展望－」	平成30年1月20日～3月31日	府立弥生文化博物館	府文化財保護課の50年の歩みと今後の展望を展示（美術工芸・建造物・民俗・歴史・埋蔵文化財等の各分野を展示）	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開
	和泉池上文化財収蔵庫特別公開	平成30年2月4日	和泉池上文化財収蔵庫	「もうひとつ、遺跡発掘50年」府立弥生文化博物館の冬季企画展簡速展示	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開
本文化財調査事務所の展示会	和泉池上文化財収蔵庫特別公開	平成30年2月17日	和泉池上文化財収蔵庫	「もうひとつ、遺跡発掘50年」府立弥生文化博物館の冬季企画展簡速展示	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開
	弥生フラワ展示「方形周溝墓に供えた土器－和泉市府中遺跡－」	平成30年3月1日～9月29日	府立弥生文化博物館	和泉市府中遺跡の第3号方形周溝墓出土供献土器を展示	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開
	和泉池上文化財収蔵庫特別公開	平成30年3月24日	和泉池上文化財収蔵庫	「もうひとつ、遺跡発掘50年」府立弥生文化博物館の冬季企画展簡速展示	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開
	「南河内発見の初期須恵器」	平成29年2月10日～8月9日	文化財調査事務所	富田林市岸之本南遺跡出土の初期須恵器を展示	一般	
	「堺市高藏寺第13号窯の調査成果」	平成29年7月28日～平成30年2月28日	文化財調査事務所	堺市高藏寺第13号窯跡出土の須恵器を展示	一般	
出かける博物館事業（講演会・連絡会等）	「河内長野市境原遺跡発見の縄文集落」	平成29年8月10日～平成30年2月8日	文化財調査事務所	河内長野市境原遺跡出土の縄文時代中期から後期の土器と石器を展示	一般	
	「南河内発見の縄文遺跡」	平成30年2月9日～	文化財調査事務所	藤井寺市国府遺跡と富田林市錦織南遺跡出土の縄文土器と石器を展示	一般	
	「河南町東山遺跡発見の高地性集落」	平成30年3月1日～	文化財調査事務所	河南町東山遺跡出土の弥生時代後期の土器を展示	一般	
	弥生フラワ展示開連講演会	平成29年4月8日	府立弥生文化博物館	「境原遺跡の調査と最近の府内縄文遺跡の調査成果」	一般	
	「南邑の須恵器生産とその流通」展開連講演会	平成29年6月3日	府立狭山池博物館	「高藏寺第13号窯の調査について」	一般	展示解説も実施
出かける博物館事業（講演会・連絡会等）	くすのきカレッジ日本史・郷土史学科	平成29年6月13日	東大阪市くすのきプラザ	「河内の城を復元する」	一般	
	「陶邑の須恵器生産とその流通」展開連講演会	平成29年6月25日	河内長野市立ふるさと歴史学習館	「須恵器から見た古墳時代の葬祭」	一般	河内長野市教育委員会職員が講演
	弥生フラワ展示開連講演会	平成29年9月9日	府立弥生文化博物館	「和泉地域と高地性集落－觀音寺山遺跡－」と「高地性集落の成立類型に見る東山遺跡」	一般	弥生文化博物館学芸員が講演
	守口市市民大学講座2017	平成29年9月23日	守口市生涯学習情報センター	「飯盛城跡の価値と魅力」	一般	
	くすのきカレッジ日本史・郷土史学科	平成29年11月14日	東大阪市くすのきプラザ	「大阪平野を掘る① 近畿自動車道の発掘調査」	一般	

表7 平成29年度 文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業一覧（2）

事業	事業名	実施年月日	実施場所	内 容	対 象	備 考
出かける博物館事業 講演会・通説会・通説案内等	第23回郷土史教室講座	平成29年11月18日	茨木市立文化財資料館	「西福井遺跡の縄文時代の様相」	一般	「西福井遺跡の縄文時代」展開連講演会
	大阪市立大学博学連携講座	平成29年11月20日	大阪市立大学 文化交流センターホール	「発掘調査からみた大坂城外縁部と真田丸」	講座応募者	
	平成29年度かなえ会秋講座	平成29年12月14日	(公財)住吉陪保事業推進センター	「江戸時代の浪華と京—武家・公家・町人ー」	会員	
	くすのきカレッジ日本史・郷土史学科	平成30年1月9日	東大阪市くすのきプラザ	「小島勝治・布施が生んだ民俗学者」	一般	
	「南河内の縄文遺跡を探る」 展開連講演会	平成30年1月13日	府立狭山池博物館	「南河内の縄文遺跡を探る」	一般	展示解説も実施
	堺自由の泉大学	平成30年2月1日	堺市立女性センター	「土師氏と堺—埴輪づくりと古墳のマツリー」	一般	
	冬季企画展「かけがえのない 文化財を守る、伝える—大阪 における歩みと展望—」開連 講演会	平成30年2月10日	府立弥生文化博物館	「大阪府における埋蔵文化財行政の50年」	一般	文化財保護課ホームページ 埋蔵文化財情報でも公開
	「大坂城石垣と石切丁場シン ポジウム」	平成30年2月10日	大阪歴史博物館	「重なるふたつの大坂城—発掘調査成 果からー」	一般	
	くすのきカレッジ日本史・郷 土史学科	平成30年2月13日	東大阪市くすのきプラ ザ	「大阪平野を掘る② 瓜生堂遺跡」	一般	
	堺自由の泉大学	平成30年3月15日	堺市立女性センター	「堺と大坂—秀吉の堺ー」	一般	
その他児童 見学者とイ ベント応 援等	続日本100名城選定記念連 続講座「飯盛山とおおさかの 名城」	平成30年3月24日	大東市立生涯学習セン ター	「大坂城」	一般	
	大阪樟葉女子大学博物館実習	平成29年8月24日	文化財調査事務所	遺物と施設の見学	関係者	小谷城郷土館事業
	若竹保育園	平成29年10月31日	文化財調査事務所	施設の見学	関係者	
	府立弥生文化博物館 「関西文化の日」	平成29年11月18日・ 19日	府立弥生文化博物館	土器パズル等イベント応援	一般	
	若竹保育園	平成29年11月29日	文化財調査事務所	施設の見学	関係者	
	堺市立庭代台中学校2年生	平成29年12月7日	文化財調査事務所	遺物と施設の見学	関係者	小谷城郷土館事業
	堺市立精美台中学校2年生	平成30年1月25日	文化財調査事務所	遺物と施設の見学	関係者	小谷城郷土館事業
	堺市立若松台小学校3年生	平成30年2月1日	文化財調査事務所	遺物と施設の見学	関係者	
	堺市立竹城台東小学校3年生	平成30年2月20日	文化財調査事務所	遺物と施設の見学	関係者	
文化財保 護課ホ ームペ ージで の調査成 果公 開	若竹保育園	平成30年3月14日	文化財調査事務所	施設の見学	関係者	
	若竹保育園	平成30年3月22日	文化財調査事務所	施設の見学	関係者	
	府立弥生文化博物館 弥生フェスティバル	平成30年3月24日・ 25日	府立弥生文化博物館	体験イベントの応援	一般	府立弥生文化博物館無料公 開
	宮町遺跡	平成29年1月から3月 調査	埋蔵文化財情報 発掘調査情報	府道新設に伴う発掘調査で、古墳時代 から中世にかけての集落跡が発見さ れた。古墳時代後期の建物跡、溝、土坑、 平安時代の棚列等が見つかっている。	一般	平成29年8月から公開
	雁屋遺跡	平成29年9月19日か ら公開	埋蔵文化財情報 出土資料紹介	平成6年度と平成9年度の府立四條畷 高校の増築工事に伴う発掘調査におい て出土した、弥生時代中期の銅鏡6点 を紹介。	一般	
	日下遺跡（くさかいせき）か ら出土した馬骨	平成30年2月15日か ら公開	埋蔵文化財情報 出土資料紹介	昭和41（1966）年に、帝釋山大学の 故 坪田直氏による調査の際に、古墳時 代の馬の骨格が、ほぼ完全な形で発見 された。この資料について紹介。	一般	
	宮園遺跡	平成29年6月から平成 30年1月調査	埋蔵文化財情報 発掘調査情報	府営八田荘住宅の歩道設置に伴う発掘 調査で、中世後期の粘土採掘に伴う土 坑群と埋没谷が発見されている。	一般	平成30年3月14日から公 開
出前授業	府中遺跡	平成29年2月から9月 調査	埋蔵文化財情報 発掘調査情報	府道の新設に伴う発掘調査において、 弥生から古墳時代にかけての集落跡が 見つかりました。また古墳時代初頭の 埋没河川と、古墳後期の石敷き遺構等 が発見されている。	一般	平成30年3月14日から公 開
	番川川下流遺跡	平成29年10月から 2018年3月調査	埋蔵文化財情報 発掘調査情報	岬町道新設に伴って、府教育委員会と 岬町教育委員会が共同で発掘調査を実 施した。調査の結果、弥生時代以降の 自然河川と古墳時代から古代の焼土坑 等が発見された。	一般	平成30年3月22日から公 開
社会科出前授業	「愛休み子ども考古学はかせ」	平成29年7月29日	富田林市立金剛公民館	「古代の技術をまねて、鏡や錢の模型 作りにチャレンジ」	小学校高学年	大阪府教育庁と富田林市教育 委員会の連携事業
	社会科出前授業	平成29年9月12日	大阪狭山市立東小学校	郷土の歴史における狭山藩陣屋 (発掘調査成果の活用等)	小学6年生4クラス	大阪府教育庁と大阪狭山市 教育委員会の連携事業

## 平成29年度収蔵資料

■収蔵資料			
■埋蔵文化財（各収蔵庫・整理箱数）			
(1) 北部収蔵庫（摂津市鳥飼中）	2,815 箱	(3) 守田コレクション	200 点
(2) 東大阪収蔵庫（東大阪市長田東）	42,392 箱	(4) 上平家資料	150 点
(3) 泉北収蔵庫（高石市綾園）	36,385 箱	(5) 畑野家資料	68 点
(4) 文化財調査事務所（堺市南区竹城台）	6,081 箱	(6) 三宅家資料	一括
(5) 泉佐野収蔵庫（泉佐野市日根野）	45,379 箱	(7) 大恩寺資料	一括
(6) 近つ飛鳥博物館（河南町大字東山）	7,762 箱	(8) 前西家資料	22 件
(7) 和泉池上収蔵庫（和泉市池上町）	29,744 箱	■美術工芸品	
(8) 岸和田収蔵庫（岸和田市磯ノ上町）	18,368 箱	(1) 田中家文書一括	5 箱4,100 点
■民俗文化財		(2) 「府立大阪博物場」資料	
(1) 谷口家資料	221 点	・旧蔵美術工芸品（大阪府指定文化財）	277 点
(2) 上辻家資料	132 点	・古銭（大阪府指定文化財）	4 箱3,078 点
		・その他博物場資料	一括
		■その他写真・図面・図書資料	一括

## 平成29年度調査・研究等の検討会

第1回 平成29年4月12日（水） 「発掘調査成果からみた難波宮と大化改新」 市川 創	第6回 平成29年11月8日（水） 「府中遺跡の発掘調査成果－平成29年度の調査－」 橋本高明
第2回 平成29年5月10日（水） 「7世紀の河内平野低地部の様相－集落廃絶考古学 のすすめ」 阪田育功	第7回 平成29年12月13日（水） 「1987年度調査の亀井遺跡」 辻本 武
第3回 平成29年6月14日（水） 「日下遺跡出土資料（堅田調査資料）の整理について」 藤田道子	第8回 平成30年1月10日（水） 「西福井遺跡出土の縄文時代人骨について」 岡田 賢
第4回 平成29年9月13日（水） 「発掘調査及び関連業務におけるデジタル化－その 可能性とメリットについて－」 市川 創	第9回 平成30年2月8日（水） 「とりあえず今までやってきた発掘調査」 竹原伸次
第5回 平成29年10月11日（水） 「H28宮町遺跡の調査成果」 山田隆一	第10回 平成30年3月14日（水） 「速報 備前 万富瓦窯の瓦の観察」 三木 弘

## 平成29年度大阪府教育庁文化財保護課刊行物一覧

- 大阪府埋蔵文化財調査報告
- 2017-1 『西福井遺跡Ⅱ－一般府道余野茨木線歩道整備工事に伴う発掘調査－』
- 2017-2 『宮園遺跡－大阪府営堺宮園第Ⅰ期高層住宅（建て替え）新築工事に伴う発掘調査－』
- 2017-3 『府中遺跡－都市計画道路大阪岸和田南海線街路築造事業に伴う発掘調査－』

### 年報

『大阪府教育庁文化財調査事務所年報21』

## 平成 29 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧

表8 実物資料・複製資料長期貸出

No	申請者	遺跡	資料内容／点数	数	目的
1	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	池上曾根遺跡	石包丁 3	3	総合展示第1展示室「水田耕作の始まり」で展示
2	大阪府府民文化部 (ドーンセンター)	大坂城跡	木製下駄 8	8	府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)4Fロビーで展示
3	高槻市教育委員会	太田茶臼山古墳	円筒埴輪 3	3	今城塚古代歴史館で常設展示
4	府立八尾北高等学校	萱振遺跡	弥生中期(壺1)、弥生後期(長頸壺1、無頸壺1、壺蓋1)、土師器(壺1)、須恵器(高杯1、蓋1、杯1、杯蓋1、ワツ1)、埴輪(円筒1、衣笠6)、石(勾玉4、紡錘車2、臼玉8)その他(写真パネル一式)	31	生徒・保護者に対する普及啓発
5	和泉市教育委員会	府中遺跡	弥生土器(高杯1、壺7、甕2、銷壺形2)	141	いずみの国歴史館で常設展示
		坂本寺跡	軒瓦(丸5、平5)		
		大園遺跡	有舌尖頭器2、子持勾玉2、滑石製模造品(勾玉1 紗綿串1)		
		池上曾根遺跡	弥生土器(壺1、水差形1、高杯1、鉢1、壺1)木製品(府指定:鋤2、杓子2、椀2、高杯1、合子1、簪3)(斧の柄1、布巻具1、不明品1、四脚付盤1、臼1、鋤1、簪2)レプリカ(男根1、広鏡1、臼1、杓子1、鋤1)石器(錐2、石庖丁2、環状石斧2、石斧9、石槍5、投弾3、匕首勾玉1、管玉5)その他(ガラス片3、鹿角1、骨製ヤス2、骨器未製品5、銅鏡2、八棱鏡1)		
		觀音寺遺跡	文字瓦「信太寺」		
		信太寺跡	瓦(人物画像1、「信太寺(陰刻1、陽刻1)」、「主引」1、重弧文(軒丸1、軒平1))		
		池田寺跡	文字瓦(「池田」3、「首」1、「池田堂」1、中世文字瓦1)軒丸瓦(重弧文1、単弁蓮華文)山田寺式4、輕寺式1、池田寺式2)軒平瓦(均整唐草文1)、石製巡方1		
		和泉寺跡	平瓦2、軒平瓦1、軒丸瓦(複弁蓮華文3)		
6	大阪府立茨木高等学校	新庄遺跡	弥生土器(壺2、甕2、鉢2、蓋3)、磨製石斧5	14	社会科教室内の展示コーナーで展示、活用
7	宮崎県立西都原考古博物館	陶邑窯跡群	須恵器 109	109	西都原考古博物館での展示・研究、教育普及活動に使用
8	奈良国立博物館学芸部 企画室	新堂廐寺	軒丸瓦7、鶴尾片2、種先瓦1	16	西新館「仏教考古及び歴史考古の名品展」で展示
		河内寺	軒丸瓦2、軒平瓦2		
		百濟寺	軒丸瓦1		
		高宮廐寺	軒丸瓦1		
9	堺市博物館	余部遺跡	瓦器(椀27、皿6)、瓦質釜1、土師皿1、鉄製刀子1、鋳型29、鐵塊7、縄羽口18、砥石7、青銅製品2	99	みはら歴史博物館で常設展示
10	府立三国丘高等学校	向泉寺跡	瓦(軒丸10、軒平8、鬼3、雁振1)瓦器(椀7)、土師器(皿11)、備前(摺り鉢1)土師質(羽釜1)、陶磁器5、硯1	48	日本史教育の資料および、地域府民への紹介に使用
11	大阪狭山市教育委員会	池尻城跡	瓦器(椀13、椀片6、皿8)、瓦質釜2、須恵器11、青磁4、瓦5、土師器(釜6、皿10、壺1)、陶器(東播1、陶甕2、備前1、常滑3、甕2)、遺物袋7	82	郷土資料館での常設展示
12	府立四條畷高等学校	雁屋遺跡	弥生後期(鉢4、甕7、壺4、高杯2、器台3、台付鉢2、長頸壺1、台付甕1、手焙り2)、弥生中期(壺3、無頸壺1、蓋1、高杯1)、須恵器(杯2、蓋1、高杯1、平瓶、壺1、ワツ1、土師器(壺2)、黒色土器椀1、石器(砥石4、石鎌5))	78	教材として展示・活用
		更良岡山遺跡	円筒埴輪3、須恵器3		
		その他	写真・解説パネル21		
13	豊能町教育委員会	余野城跡	砥石1、瓦器19、土師器8、中世陶器4、備前摺り鉢1、丹波焼甕1、羽釜1	35	豊能町立郷土資料館で展示
14	能勢町教育委員会	大里遺跡	弥生土器(壺1、甕3、無頸壺1、鉢1、蓋1、高杯1)、土師器(壺1、杯2、甕、器台1)、須恵器(杯2、甕3)、石庖丁4、石斧3、石錐1、石鎌7	46	能勢町住民サービスセンター内能勢町歴史資料室で展示
		上椿遺跡	須恵器(甕1)		
		尾道遺跡	須恵器(杯1、蓋2、円面硯1)、土師器(高杯1)		
		九ノ坪遺跡	黒色土器(椀2)、土師器(小皿3)		

No	申請者	遺跡	資料内容／点数	数	目的
15	大阪府立狭山池博物館	池尻城跡	青金 1	2	博物館で常設展示
		大和川今池遺跡	鋤 1		
16	大阪府立茨田高等学校	茨田安田遺跡	弥生土器（壺 2）、須恵器（杯 5、高杯 3、椀 1、甕 4、その他 1、こね鉢 1）、韓式系土器（甕 1）、土師器（甕 5、高杯 3、椀 1、皿 4）、瓦器（碗 31、皿 1、火鉢 1）、磁器（碗 2）、石製品（砥石 1）、木製品（下駄 2、箸 2、人形首 1）、土製品（土建 1）、金属製品（キセル 1）、その他（加工骨 1）、バネル 16	92	1号館 3F「まむだ館（資料室）」で展示・活用
17	交野市教育委員会	大谷北窯	須恵器（杯 14、杯蓋 9、甕 1、脚部 1、破片 21）、埴輪（破片 3）	49	交野市立教育文化会館内歴史民俗資料展示室で常設展示
18	太子町教育委員会	伽山古墓	銀製帶金具（レプリカ）	7	太子町立竹内街道歴史資料館第 2 展示室で常設展示
		伽山遺跡	須恵器（杯 1、器台 2、平瓶 1）、土師器（高杯 1、杯 1）		
19	吹田市立博物館	吉志部瓦窯跡	軒丸瓦（単弁十六葉 1、複弁八葉 1）、軒平瓦（均整唐草 1）、平瓦 1、綠釉陶器片 2、綠釉瓦片 8、窯道具 8	22	博物館で常設展示
20	泉大津市教育委員会	池上曾根遺跡	炭化米（286 M 地点 B 溝 黒色粘質土層）	1	池上曾根弥生学習館で常設展示
21	九州国立博物館	法蓮坂遺跡	銅印「當氏之印」（府指定）	1	常設展示「海の道、アジアの路」
22	藤井寺市立図書館	三ツ塚古墳	小修羅	1	図書館展示室
23	箕面市教育委員会	箕面経塚	和鏡 3、銅鏡 4、青白磁合子（蓋 1、身 2）、青白磁小壺（蓋 1、身 2）、褐釉壺 1	14	箕面市立郷土資料館常設展示

表9 実物資料・複製資料短期貸出

No	申請者	遺跡	資料内容	点数	目的
1	弘前大学人文社会科学 部	池島・福万寺遺跡	07-1 調査区 イネ種子遺存体	30	品種同定およびDNA分析
2	弘前大学人文社会科学 部	池島・福万寺遺跡	90-3 調査区 出土炭化米	100	品種同定およびDNA分析
3	府立狭山池博物館	民俗資料	御硯箱、御色紙箱、御文庫、御文台、御短冊箱、婚礼用簪・櫛	6	池守田中家文書特別公開「婚礼と祝事の礼法」で展示で展示
4	柏原市立歴史資料館	玉手山東横穴群	刀子 1、耳環 6、銀鈴 1、紡錘車 1	9	夏季企画展『横穴探求』で展示
5	府立弥生文化博物館	国府遺跡	旧石器（角錐状石器 4、搔器 2、接合資料 2、剥片 6、石核 2、ナイフ形石器 5）	21	夏季特別展『沖縄の旧石器人と南島文化』で展示
6	府立近つ飛鳥博物館	応神天皇陵古墳	埴輪（盾形 6、甲冑形 2、蓋形 2、不明 1）	15	夏季企画展「百舌鳥・古市古墳群を世界遺産に！」に展示
		三ツ塚古墳	土師器 2、須恵器 2		
7	個人（大阪大学）	陶邑窯跡群	須恵器（TG22・35・40・41、51、MT84・209、TK317）	55	地磁気強度計測による地磁気の変動過程の研究と、年代研究の再検証
8	山梨県立考古博物館	シショツカ古墳	金銅装大刀責金具 1、銀象嵌（大刀柄頭 1、鞘尻金具 1、巾頸 1）、ガラス玉、漆塗籠棺片 15	20	第35回特別展「ひつぎのヒミツ—棺から読み解く古墳時代—」で展示
9	大阪狭山市教育委員会	池尻城跡	土師皿 3、軒平瓦 2、軒丸瓦 1、須恵器 4	10	市制施工 30 周年記念特別展「行基伝承—受け継がれた記憶—」で展示
10	府立近つ飛鳥博物館	東郷遺跡	特殊器台 1	29	秋季特別展『(仮)古墳出現期の筑紫・吉備・畿内—2・3世紀の社会と経済—』で展示
		萱振遺跡	製塩土器 14、外来系土器 2		
		池島・福万寺遺跡	鏡片（方格四乳 1、画文帯 1、内行花文 1、重圓文 1）、銅鏡 2、土師器 1、石杵 1、土製鋳型 5		
11	府立弥生文化博物館	小島東遺跡	骨角器 2、製塩土器 12	20	秋季特別展「海に生きた人びと—漁撈・塩づくり・交流の考古学」で展示
		都屋北遺跡	製塩土器 6		
12	群馬県立歴史博物館	都屋北遺跡	鉄滓 3、馬下顎骨 1、須恵器（壺 2、高杯 1、蓋 1、把手付椀 3、皿 2）、製塩土器 9、韓式系土器（鍋 1、甕 1、鉢 1）、黒色研磨高杯 1、砥石 3、U字形土製品 1、鉄製品（鎌 5、鍔 4、刀子 1、鎌轡 1=府指定）、鹿角製品（刀装具 1、管玉 1、有孔品 1、加工品 1）、木製品（鞍レプリカ、船材 2、輪燈 2=府指定）	54	第93回企画展「海を渡つて来た馬文化—黒井峯遺跡と群れる馬」で展示
13	四條畷市教育委員会	正法寺跡	「正法寺」墨書き土器 1	11	第32回特別展「鶴野讚良皇女—持統天皇と北河内の飛鳥・奈良時代—」で展示
		百濟寺跡	鬼瓦 2		
		大谷北窯跡	須恵器（杯 5、蓋 3）		

No	申請者	遺跡	資料内容／点数	数	目的
14	尼崎市教育委員会	萱振遺跡	勾玉4、臼玉8、円筒埴輪2、紡錘車2	43	第47回特別展「みんなのまわりの遺跡をさがそう～学校の下の遺跡～」で展示
		雁屋遺跡	弥生土器8(絵画土器を含む)、鳥形木製品1		
		谷川遺跡	ナイフ形石器2、尖頭器1、弥生土器2、須恵器2、土師器3、東播系鉢1碗1、鉛筆多数、アルコールランプ2、標本瓶1、ピンセット1、軟式ボーラー1		
15	徳島県立鳥居龍藏記念博物館	国府遺跡	旧石器4、円筒埴輪1、瓦(軒丸2、軒平1、丸1、平1)、須恵器(杯1、蓋1、横瓶1)、土師器(壺1、土馬1)	15	企画展「鳥居龍藏 日本人の起源に迫る 一本彦彦との交流」で展示
16	国立歴史民俗博物館	陶邑窯跡群	焼け歪み須恵器5	5	平成29年度企画展示「世界の眼でみる古墳文化」で展示
17	個人 (東海大学・金沢大学)	轟屋北遺跡	ウマ・イノシシ・イヌの骨	19	「古墳時代の馬飼いに関する動物考古学的研究」に関する分析
		日下遺跡	ウマの骨		
18	近つ飛鳥博物館	池島・福万寺遺跡	土師器(壺1、羽釜1)、U字形土製品6	10	平成30年度春季企画展「渡来人と群集墳――須賀古墳群を考える」で展示
		東山遺跡	須恵器(壺1、蓋1)		

表10 資料撮影、写真・図面等貸出・掲載

件数	依頼者	撮影掲載貸出	種類	遺跡等	内容	点数	目的／掲載誌
1	柏原市立歴史資料館	撮影・掲載	写真	玉手山東横穴群	刀子1(A-1号)、耳環10(B-4号)銀鈴1(B-4号)、紡錘車1(B-5号)	13	夏季企画展「横穴探求」の図録
2	(株)新泉社	掲載	写真	池上曾根遺跡	発掘見学会風景	1	『文化財保存70年の歴史 明日への文化遺産』
3	東陶器校区連合自治会	掲載	写真	陶器千塚・陶器遺跡	調査区全景航空写真	1	『ふるさと魅力資源散策マップ 歴史の散歩道』
4	柏原市立歴史資料館	貸出・掲載 (テレ外)	写真 (テレ外)	玉手山東横穴群	横穴遠景、A群近景、B群近景、横穴A(1、2、3)、B(5、12、12)敷石、17)、銀鈴、耳環、紡錘車	13	夏季企画展「横穴探求」の図録
5	河南町教育委員会	貸出・掲載	写真 (テレ外)	ツカマリ古墳	調査部調査中写真	1	「かなん文化財講座」受講者募集チラシ
6	アイ・ワイ・エス・テレビ制作株式会社	貸出・掲載	図面	高槻城跡	位置図と発掘調査地点、明治18年地図上の城跡	2	日本テレビの番組内で使用
7	藤井寺市教育委員会	掲載	写真	古室遺跡	青形埴輪	1	『古室山・大鳥塚古墳』藤井寺市文化財報告第41集
8	個人(堺市文化財課)	貸出・掲載	図・写真	池田寺瓦窯	実測図4、調査中写真15	32	窯跡研究会での発表資料
			写真	鶴田池東瓦窯	調査中写真4		
			写真	美木多瓦窯	調査中写真9		
9	(公財)石川県埋蔵文化財センター	貸出・掲載	写真 (テレ外)	国府遺跡	出土旧石器の集合写真	1	いしかわの発掘展「遺跡が語る発掘20年の歴史 Part I～旧石器から古墳時代編～」でパネル展示
10	府立近つ飛鳥博物館	貸出・掲載	写真 (テレ外)	唐櫃山古墳	出土した石棺	1	夏季企画展「百舌鳥・古市古墳群を世界遺産に!」の図録
11	大東市教育委員会	貸出・掲載	写真 (テレ外)	飯盛城跡	ガラス乾板写真	47	大東市での調査研究専門委員会資料およびホームページ
12	(株)吉川弘文館	掲載	写真	轟屋北遺跡	長胴甕	1	小林正史編『モノと技術の古代史』陶芸編
13	山梨県立考古博物館	貸出・掲載	写真 (テレ外)	シショツカ古墳	古墳近景・石室・奥室・金銅装大刀貴金属1、銀象嵌(大刀柄頭1、鞘尻金具1、巾頭1)、ガラス玉、漆塗籠棺片	9	第35回特別展「ひつぎのヒミツ－棺から読み解く古墳時代－」の図録
14	府立近つ飛鳥博物館	貸出・掲載	写真 (テレ外)	萱振遺跡	調査中写真(A区、SE03)、製塩土器1、吉備型土器2	6	秋季特別展「古墳出現期の筑紫・吉備・畿内－2・3世紀の社会と経済－」の図録
				成法寺遺跡	SX1調査中		
		掲載	写真	池島・福万寺遺跡	鏡片(方格四乳1、画文帶1、内行人文1、重圓文1)、銅鏡2、土師器1、石杵1、土製鋳型5	14	秋季特別展「古墳出現期の筑紫・吉備・畿内－2・3世紀の社会と経済－」の図録
				東郷遺跡	特殊器台片		

件数	依頼者	撮影掲載貸出	種類	遺跡等	内容	点数	目的／掲載誌
15	府立弥生文化博物館	貸出・掲載	写真 (デジタル)	小島東遺跡	縄群全景	2	秋季特別展「海に生きた人びと－漁撈・塩づくり・交流の考古学」の図録
				部屋北遺跡	馬埋納土坑		
		撮影・掲載	写真	小島東遺跡 部屋北遺跡	骨角器2、製塩土器12 製塩土器6	20	
16	堺市博物館	貸出・掲載	写真 (デジタル)	陶邑窯跡群	TG21号、TG35号、TG38・39号、TK41号	4	泉北ニュータウン50周年記念企画展「泉北丘陵－谷あいの村々とニュータウン－」でパネル展示
17	群馬県立歴史博物館	貸出・掲載	写真 (デジタル)	部屋北遺跡	遺跡遠景、居住域C区、井戸B区、製塩土器土坑A区、馬理納土坑A区、鏡轡出土状況、鞍出土状況、木製鞍、木製輪轡、鏽轡、U字形土製品、韓式系及び土師器の瓶、鹿角製品、馬の下顎骨、韓式系土器、製塩土器、砥石・羽口・鉄滓等、大溝下層の土器	21	第93回企画展「海を渡って来た馬文化－黒井峯遺跡と群れる馬」の図録
18	個人（山口大学）	掲載	表	藤の森古墳	出土鏡の計測表	1	『古代学研究』214号
19	四條畷市教育委員会	貸出・掲載	写真 (デジタル)	百濟寺跡	東塔	3	第32回特別展「鶴野謙良皇女－持統天皇と北河内の飛鳥・奈良時代－」
				大谷北窯跡	調査地全景・窯跡		
20	八尾市教育委員会	掲載	原稿・拓本・図	正法寺跡	「正法寺」墨書き土器	1	『新版八尾市史 考古編1－遺跡からみた八尾の歩み－』
				大竹向山瓦窯跡	昭和36年3月の原稿1、拓本5、実測図1	7	
21	尼崎市教育委員会	貸出・掲載	写真 (デジタル)	菅振遺跡	1号墳全景、絵画土器、銅鏡、銅剣、翔形埴輪	15	第47回特別展「みんなのまわりの遺跡をさがそう～学校の下の遺跡～」
				雁屋遺跡	1区全景、周溝墓群全景、周溝墓出土土器		
				谷川遺跡	調査区全景、掘立柱建物跡、周溝墓西半、木葉形尖頭器、土師甕、羽釜、スパイク、軟式ボール		
		掲載	写真	雁屋遺跡	鳥形木製品	1	
22	百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議	掲載	写真	錢塚古墳	円筒埴輪	1	百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進パンフレットに掲載
23	堺市博物館	貸出	日誌・図面	陶邑窯跡群	昭和37・38・39・45の調査日誌、ニュータウン各住区の窯跡分布図	8	泉北ニュータウン50周年記念企画展「泉北丘陵－谷あいの村々とニュータウン－」
24	淡交社	貸出・掲載	写真 (デジタル)	陶邑深田遺跡	樽形ハケ	1	『茶道教養講座⑧日本の陶磁』
25	個人（奈良市）	掲載	拓本・図面	河内国分寺跡	軒丸瓦3、軒平瓦6、鬼瓦1	10	『国分寺の総合研究II 遺物編』「河内」
26	出版文化社	貸出・掲載	写真 (デジタル)	府中遺跡	縄文土器2	2	『河南町における古墳関係の展示』でパネル展示
27	河南町教育委員会	掲載	写真	寛弘寺古墳群	金製飾金具、水晶切子玉	6	『河南町における古墳関係の展示』でパネル展示
				アカハゲ古墳	墳丘全景		
				シショツカ古墳	出土遺物（埋甕）、近景、奥室		
28	(株) NHKエンタープライズ	貸出・掲載	写真 (デジタル)	部屋北遺跡	輪燈、鏽・轡、鞍 各出土状況	3	『英雄たちの選択 僕の五王(仮)』の放送
29	大阪府府民文化部府政情報室	掲載	写真	部屋北遺跡	馬の全身骨格	1	「府政学習会in謙良立坑・なわて水みらいセンター」の広報
30	(株)雄山閣	掲載	写真	部屋北遺跡	樽形ハケ	1	『季刊考古学』142号
31	高槻市教育委員会	貸出・撮影	写真	阿武山古墳	ガラス乾板（石室、夾紵棺、頭部人骨、玉枕等）	8	平成30年度展示事業の準備
32	大東市教育委員会	掲載	写真	堂山1号墳	全景写真	1	『再発見！とめやんと巡る大東の歴史 古代編』
33	堺市土塔町自治会	掲載	写真	史跡土塔	調査時及び昭和30年代の写真	4	『土塔町の歴史』
34	国立歴史民俗博物館	貸出・掲載	写真 (デジタル)	部屋北遺跡	馬の全身骨格 出土状況	1	企画展示「世界の眼でみる古墳文化」の図録

件数	依頼者	撮影掲載貸出	種類	遺跡等	内容	点数	目的／掲載誌
35	国立歴史民俗博物館	貸出・掲載	写真 (テレ抄)	鶴屋北遺跡	馬埋納土坑	1	総合展示第1展示室 パネル等に常設
36	堺市長	貸出・掲載	写真 (テレ抄)	大野寺	伝 経塚	1	『史跡土塔と刻書瓦』
37	百舌鳥・古市 古墳群世界文化遺産登録推進本部会議	貸出・掲載	写真 (テレ抄)	錢塚古墳	円筒埴輪	1	百舌鳥・古市古墳群 世界文化遺産推薦書 中への掲載
				三ツ塚古墳	修羅出土状況	1	
				古室遺跡	青形埴輪	1	
				墓山古墳	盾持ち人形埴輪	1	
				鶴屋北遺跡	馬埋納土坑	1	
		掲載	写真	津堂城山古墳	石棺調査状況写真	1	
				古室山古墳	円筒埴輪	1	
38	個人(大阪府文化財センター)	掲載	図・写真	紅葺山南遺跡	須恵器(器台)	1	「コンバス文器台考」 『大阪文化財研究』第51号
39	(株)新泉社	貸出・掲載	写真 (テレ抄)	シショツカ古墳	羨道部閉塞状況	1	『蘇我氏の古代学』
40	河内長野市教育委員会	掲載	図・写真	はざみ山遺跡	旧石器時代の住居跡	1	シリーズ河内長野の 遺跡 12 「発掘された 建物跡～遺跡より見 た建築物の歴史～」
41	個人	掲載	図・拓本・ 写真	国府遺跡	形象埴輪	2	『古代文化』70巻 第1号
42	藤井寺市教育委員会	貸出・掲載	写真 (テレ抄)	はざみ山古墳	後円部側外堤	1	『はざみ山古墳』
43	個人	掲載	写真	安松田遺跡	調査現場2、出土瓦3	5	『古代学研究』216号
44	和泉市教育委員会	撮影・掲載	写真	大園遺跡	有舌尖頭器、石製勾玉	5	和泉市いづみの国 歴史館 常設展示リ ニューアルに伴う展 示図録
				池上・曾根遺跡	ヒスイ勾玉・管玉・ガラス片	9	
				觀音寺跡	文字瓦「信太寺」	1	
				信太寺跡	文字瓦「信太寺」	2	
				池田寺跡	軒丸瓦4、軒平瓦1	5	
				和泉寺跡	軒丸瓦	1	

表 11 資料閲覧

No.	申請者(所属)	閲覧資料	目的	閲覧場所
1	府立狭山池博物館	民俗資料(御色紙箱・簪)	展示	調査事務所
2	個人(大阪大学)	陶邑の須恵器	研究	東大阪収蔵庫
3	府立狭山池博物館	民俗資料(櫛・簪)	展示	調査事務所
4	個人(大園遺跡出土埴輪検討会)	大園遺跡の埴輪	研究	池上収蔵庫
5	個人(奈良市埋文調査センター)	河内国分寺の軒瓦	研究	調査事務所
6	個人(大園遺跡出土埴輪検討会)	大園遺跡の埴輪	研究	池上収蔵庫
7	個人(堺市博物館)	大園遺跡の埴輪	研究	池上収蔵庫
8	個人(大阪大学)	陶邑の須恵器	研究	東大阪収蔵庫
9	個人(堺市文化財課)	瓦窯(池田寺・美木多・鶴田池東)の写真	研究	調査事務所
10	個人(大園遺跡出土埴輪検討会)	大園遺跡の埴輪	研究	池上収蔵庫
11	府立弥生文化博物館	国府遺跡の旧石器	展示	調査事務所
12	群馬県立歴史博物館	鶴屋北遺跡の土器・鉄製品・船材等	展示	調査事務所 池上収蔵庫
13	府立近つ飛鳥博物館	応神陵古墳の埴輪 三ツ塚古墳の須恵器	展示	調査事務所 池上収蔵庫
14	府立近つ飛鳥博物館	池島・福万寺遺跡の銅鏡片 萱振遺跡の製塙土器 東郷遺跡の特殊器台	展示	調査事務所
15	府立近つ飛鳥博物館	池島・福万寺遺跡の土師器・石杵 三ツ塚古墳の土師器	展示	泉佐野収蔵庫 調査事務所
16	山梨県立考古博物館	シショツカ古墳の大刀金具・漆塗籠棺等	展示	調査事務所
17	堺市博物館	陶邑窯跡群の調査カード・調査日誌等	展示	調査事務所
18	個人(大阪府文化財センター)	八尾南遺跡の土師器 紅葺山南遺跡の須恵器	研究	調査事務所
19	府立弥生文化博物館	小島東遺跡の製塙土器・鹿角製刀子・刀装具 鶴屋北遺跡の製塙土器	展示	調査事務所
20	個人(国立科学博物館)	鶴屋北遺跡の船材	研究	池上収蔵庫
21	安土城考古博物館	雁屋遺跡の銅鏡・池島・福万寺遺跡の銅鏡など	研究	調査事務所
22	個人(奈良女子大学)	桑原西古墳群・シショツカ古墳のガラス小玉	研究	調査事務所
23	個人(弘前大学)	鶴屋北・池島・福万寺のイネ種子	研究	調査事務所

No	申請者(所属)	閲覧資料	目的	閲覧場所
24	個人(大阪大学)	東山遺跡の手焙形土器	研究	弥生文化博物館
25	個人(大園遺跡出土埴輪検討会)	大園遺跡の埴輪	研究	池上収蔵庫
26	個人(大阪大学)	弁天山古墳群出土埴輪	研究	調査事務所
27	四條畷市教育委員会	正法寺跡の墨書き土器 百濟寺跡の鬼瓦	展示	調査事務所
28	尼崎市立田能資料館	萱振遺跡の玉類	展示	八尾北高校
29	尼崎市立田能資料館	萱振遺跡の土器・埴輪 雁屋遺跡の土器・木製品 谷川遺跡の旧石器・須恵器・近代の文具等	展示	調査事務所
30	個人(大園遺跡出土埴輪検討会)	大園遺跡の埴輪	研究	池上収蔵庫
31	個人(同志社大学文学研究科)	陶邑TK13の須恵器	研究	調査事務所
32	個人(同志社大学文学研究科)	陶邑TK13の須恵器	研究	調査事務所
33	個人(大阪大学文学部)	池島・福万寺遺跡の土師器	研究	調査事務所
34	個人(同志社大学文学研究科)	陶邑TK13の須恵器	研究	調査事務所
35	個人(樺原考古学研究所)	池島・福万寺遺跡の移動式カマド 藤屋北遺跡の移動式カマド	研究	調査事務所
36	個人(同志社大学文学研究科)	陶邑TK13の須恵器	研究	調査事務所
37	個人(同志社大学文学研究科)	陶邑TK13の須恵器	研究	調査事務所
38	個人(同志社大学文学研究科)	陶邑TK13の須恵器	研究	調査事務所
39	個人(同志社大学文学研究科)	陶邑TK13の須恵器	研究	調査事務所
40	個人(同志社大学文学研究科)	陶邑TK13の須恵器	研究	調査事務所
41	高槻市立今城塚古代歴史館	阿武山古墳のガラス乾板写真	展示	調査事務所
42	個人(大園遺跡出土埴輪検討会)	大園遺跡の埴輪	研究	池上収蔵庫
43	堺市文化財調査事務所	大仙遺跡の現場実測図面	調査	調査事務所
44	個人(大園遺跡出土埴輪検討会)	大園遺跡の埴輪	研究	池上収蔵庫
45	個人(大阪市文化財保護課)	瓜破北遺跡の軒丸瓦	研究	調査事務所
46	徳島県立鳥居龍藏記念博物館	国府遺跡の旧石器・埴輪・須恵器・土師器・瓦等	展示	池上収蔵庫 調査事務所
47	個人(京都府埋文センター・近畿大学・大阪大学・京都文化博物館・京都市文化財保護課・大阪府)	吉志部瓦窯跡の瓦・綠釉瓦・窯道具	研究	吹田市立博物館 吉志部神社
48	島根県古代文化センター	シシヨツカ古墳の須恵器・金銅製指輪・刀装具・漆塗籠棺	展示	調査事務所
49	個人(京都府埋文センター・近畿大学・大阪大学・京都文化博物館・大阪府)	吉志部瓦窯跡の瓦・綠釉瓦	研究	池上収蔵庫
50	和歌山県立紀伊風土記の丘	藤屋北遺跡の船材・製塩土器 大園遺跡の土錐・タコ壺 小島東遺跡の製塩土器・鹿角製品 觀音寺遺跡のタコ壺	展示	池上収蔵庫 弥生文化博物館 調査事務所
51	個人(京都府埋文センター・京都文化博物館・大山崎町・大阪府)	吉志部瓦窯跡の瓦・綠釉瓦	研究	東大阪収蔵庫
52	府立近つ飛鳥博物館	池島・福万寺遺跡の土師器・U字形土製品 東山遺跡の藏骨器	展示	泉佐野収蔵庫 池上収蔵庫

## 平成30年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図

### 【文化財保護課】

06-6941-0351 (代表)

課長 保存管理グループ

文化財企画グループ

調査管理グループ  
調査管理補佐  
小浜 成

調査管理総括  
主査 藤田道子

主査  
主任専門員  
主任専門員  
副主査  
専門員  
専門員  
専門員

横田 明 事務所・収蔵庫維持管理等  
渡邊昌宏 文化財公開活用事業 等  
山本 彰 報告書作成の遺物・資料整理等  
石角三夫 積算および竣工検査等  
藤永正明 収蔵資料の整理・管理等  
阪田育功 報告書作成の遺物・資料整理等  
竹原伸次 資料貸出・閲覧等

調査事業グループ  
調査事業補佐  
山上 弘

事業調整総括  
主査 井西貴子

主査  
主任専門員  
主任専門員  
副主査  
副主査  
専門員

山田隆一 調整・指導・発掘調査等  
橋本高明 調整・指導・発掘調査等  
三木 弘 調整・指導・発掘調査等  
杉本清美 文化財台帳整理等  
市川 創 発掘調査・遺物整理  
小林義孝 発掘調査・遺物整理

### 【文化財調査事務所】

072-291-7401 (代表)

#### 大阪府教育庁文化財調査事務所年報22

発行日 平成30年11月30日

発 行 大阪府教育委員会

〒540-8571

大阪市中央区大手前二丁目

TEL06-6941-0351 (代表)

編 集 大阪府教育庁 文化財調査事務所

〒590-0105

堺市南区竹城台三丁21-4

TEL072-291-7401

印 刷 株式会社 近畿印刷センター

〒582-0001

柏原市本郷五丁目6番25号

TEL072-972-5918